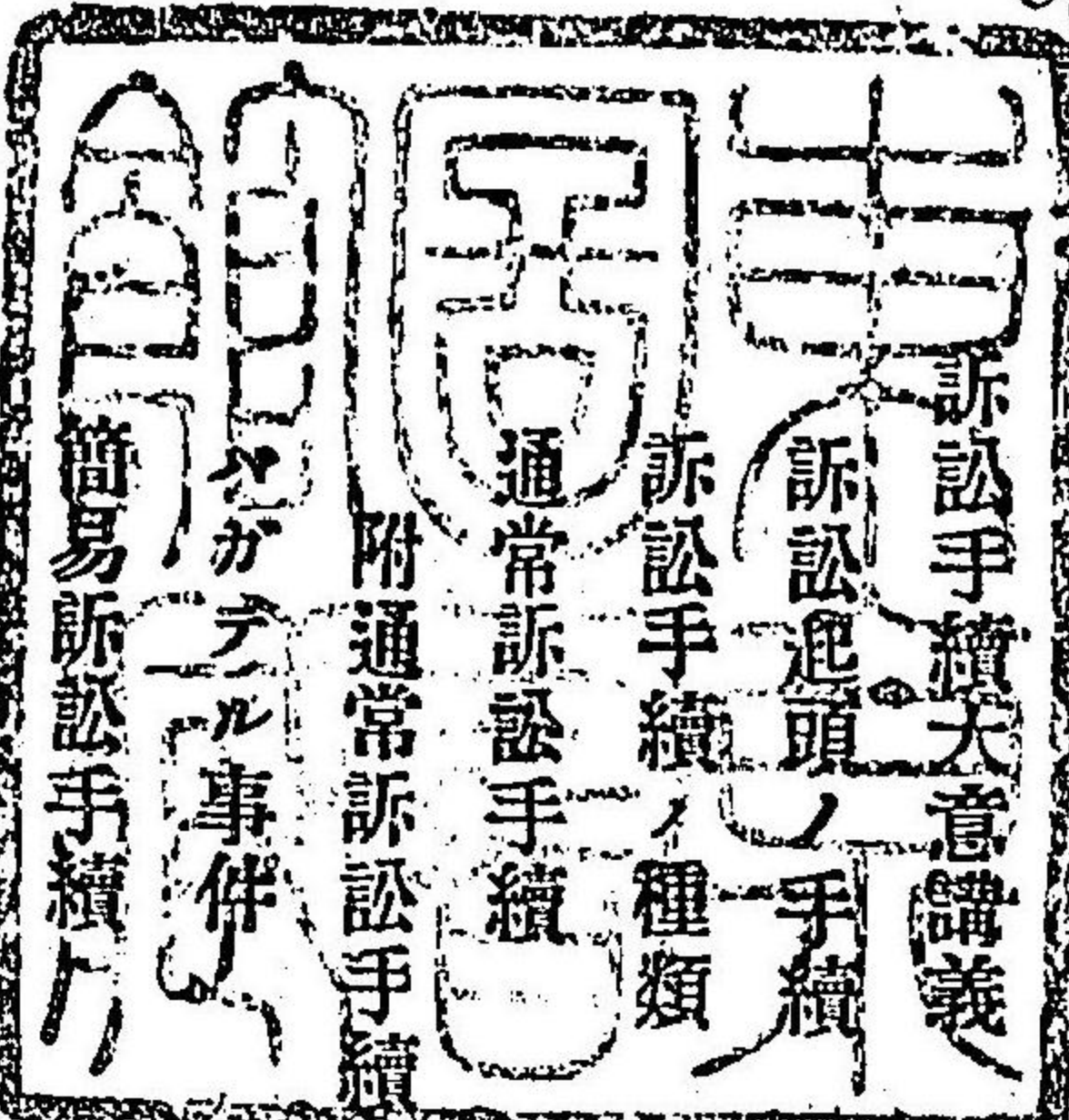


No 10219

澳國碩儒スタイン氏訴訟手續大意講義目錄

質疑問題

日本訴訟手續ニ關スル問答



訴訟手續大意講義

訴訟起頭ノ手續

訴訟手續ノ種類

通常訴訟手續

附通常訴訟手續

シガテル事件

簡易訴訟手續

証書手續

爲替手續

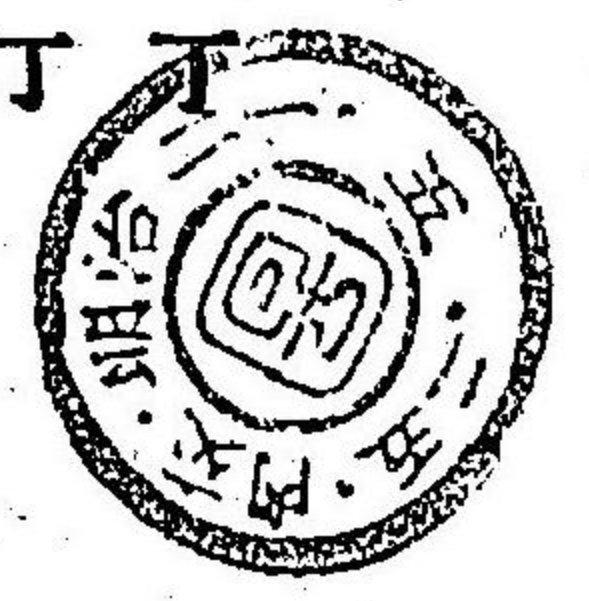
商事手續

占有ノ訴ト占有妨害ノ訴トノ別

婚姻事件

簡易訴訟手續ノ別

一	十九丁
	二十七丁
	二十八丁
	三十二丁
	三十二丁
	三十四丁
	三十六丁
	三十九丁
	三十九丁
	四十三丁
一	四十七丁



裁判所ニ於ケル行政上ノ審理處分

遺産

後見人

分散

精神病ニ關スル事件

失踪

商事ノ手續ヲ特設スルノ當否

立証手續

証書

証人

鑑定人

檢証

宣誓

自認

終極手續

二

四十八丁

五十丁

五十丁

五十二丁

五十五丁

五十六丁

五十九丁

五十九丁

六十丁

六十四丁

六十四丁

六十四丁

六十八丁

七十二丁

附口頭審理ト書面審理ノ可否
判決

七十五丁

附訴訟ノ活動タル命令判決上訴ノ詳論
執行手續

九十丁

澳國碩儒スタイン氏訴訟手續大意講義

質疑問題

松岡康毅手記



民事訴訟手續ニ限ラズ刑事治罪ノ手續行政裁判手續ト雖モ其之ヲ前手續判決執行ノ三個大別スルヲ不可動ノ原則ナリ而シテ其大別中ニ各小部門ヲ分ツコトハ勢ノ當然ナリ然ル共小部門ノ區別ヲ至ラハ各國同一ナルコト能ハス故ニ今以下ノ問題ヲ起ス

獨逸訴訟法ニ舊時所有權妨害建築ニ關スル事假處分等ノ爲メニ特ニ急速手續ヲ存シ之ヲ廢止シ各種ノ事件ヲシテ同一手續ニ從ハシムルニ至ルヲ以テ一大發明ナリトシ故ニ商事ニ係ルコト假令商事局ニ於テ取扱フキモ手續ハ尙ホ尋常訴訟ト異ナルコトナシ而シテ如此簡易ニ至ルコト得ルハ裁判期日ノ伸縮ヲ爲スコノ自由ヲ訴訟人ニ許セシニ依ル

佛國ノ如ク商事裁判所ニ於ケル手續ヲ以テ全ク別行ス

日本ハ現今マテ民事商事ノ訴訟手續同一ニシテ區別ナシ故ニ世人ハ頗ル商事ハ別ニ簡易手續ヲ設ケテレンコトヲ望ム是レ實際遲鈍ノ患ヲ免レ難キ場合モアルヲ以テナリ

右ニ付佛ノ如ク別設スヘキ歟將ク獨逸ノ如ク期日ヲ定ムルコトヲ訴訟人ノ志望ニ從フコトニス

レハ別設セサルモ差支ナカルヘキ歟

二

獨逸ノ如クスルモ押置及臨時處分等ノ變ニ應スル具アルユヘ可ナルヘシ日本ノ簡易手續ヲ望ムモノアルモ押置及臨時處分等ノ方法未タ確定セサルニ由ルコト多キニ居ル

右一問ハ商事其他至急ヲ要スルモノ、爲ニ別段ノ手續ヲ定ムヘキ哉又ハ期日ヲ伸縮スレハ別段ノ手續ヲ要セス哉ト云フニ在リ

二、總テ法律ハ成ヘク簡ニシテ明ナルヲ尙フ故ニ訴訟手續モ成ヘク同一ノ手續ヲ以テ各種類ノ訴訟ヲ取扱フコトハ素ヨリ欲スル所ナリ然レモ事物ノ成立太タ異ナルキハ自ラ之ヲ取扱フニモ同一ニスルコト能ハサル場合アリ例ヘハ獨逸ニテモ區裁判所ノ手續爲替證書手續又ハ督促手續ノ如ク特ニ別設セリ佛ニテモ簡畧事件(四百四)トシ別ニ法ヲ設ケタリ

右ノ如ク簡易ノ手續ヲ設クルニハ凡何々ノ事件ノ爲メニ定ムヘキ哉獨逸ノ如ク證書爲替婚姻、禁自治、辨償督促、押置、臨時處分等ニテ盡セリトスヘキ哉猶外ニ必要ノモノアリ哉

三、第一問中ノ商事ニ付手續ヲ別設スルモノトスルモ(余ハ成ヘク別設ヲ欲セス)之ヲ取扱ハ仍ホ普通裁判官ニテ爲スヘク商人ヲ參加セシムルハ舊慣アルノ國ハ不得止ヘシト雖モ新ニ之ヲ起スヘキモノニハ非スト信ス何トナレハ商事モ種類多シ一商事ニ精練ナルモ總テノ商事ニ通スヘキモノニ非ス例ヘハ時計商ハ水運業ノ事ヲ知ルモノニ非ス如シ一事件毎ニ其

同商業ノモノヲ用ントスレハ實際差支ニ勝ヘス又商事ハ商人ニ非レハ不可ナリト云ハ、農事ハ農夫漁事ハ漁夫ニ非レハ亦不可ナリト云フニ至ラン

スタイン氏曰 商人モ法律ニ充分通達スレハ之ヲ用ルモ可ナリ否無益ナリ此ニ原則ト云フ

ヘキハ商事ハ習慣ニ依ルコト多シ故ニ商人ヲ陪席ト爲スハ習慣ノ爲メナリ判決ノ爲メニ非ス日本ニテ商事ノ裁判ヲ爲スニ付之ヲ顧問ト爲スハ可ナリ判決ニ與ラシムヘカラス抑商事モ多分ノ場合ハ證人證書等ヲ用ヒ通常手續ニ從フヘキモノナリ陪席商人ハ僅ニ鑑定顧問ノ用ニ充ツルノ外ナシ

四、訴訟法ヲ定ムルニハ各種ノ管轄ヲ固定スヘシ其内日本ノ現行法ハ治安裁判所、地方裁判所、控訴院及大審院トス此皆十餘年前ヨリ概シ佛國制度ヲ採用セシ所ナリ余ハ思フ西洋ニテ控訴可廢トノ學士論アルト聞ケル日本ハ現行ノ制度ヲ輒ク變換スルコトハ非ナリ否能ハズ人心ニ背キ且不可ナル點モ少カラサレハナリ而シテ治安ハ金額百圓以下ノ訴訟ヲ始審シ地方裁判所ハ百圓以上及ヒ金額ニ積ルヘカラスアルモノ即身分上等ノ訴訟ヲ始審シ及治安ノ裁判ニ對スル控訴ノ終審ヲ爲ス控訴院ハ總テ地方裁判所ノ控訴ヲ終審ス而シテ大審院ハ總テ終審ノ裁判ニ對スル上告ヲ受ク

如此ニ大審院ヘハ悉ク上告スルヲ得ルニヘシ繁劇ニ堪ヘス獨逸ハ金額千五百マルク以下ノ

三

モノハ上告ヲ許サスト金額ノ多少ハ訴訟中ノ比例ヲ以テ定ムヘキモ概ソ少額ノモノハ上告ヲ許サスト爲スヘキモノト信ス如何

五 日本大審院ハ佛國ニ倣ヒ民事刑事共各一局ニテ判定ス是法律ヲ統一スルノ旨意ニ出シナリ然ルニ獨逸帝國裁判所ハ數局ニ分ツ而シテ事件ノ種類ニ依リ擔當ノ局ヲ分テリ是亦良制ト思フ此二個ノ利害長短如何

六 訴訟法ヲ確定スルニハ裁判ノ管轄ヲ明瞭ニスヘク之ヲ明瞭ニスルニハ司法ト行政トノ裁判管轄ヲ判然區別スルコト尤必要ナリ佛國ハ此區別不明瞭ナルカ故學者中ニモ行政裁判論ヲ著ハシ現行法ノ不完全ナルヲ鳴スト聞ク獨逸ハ近ク千八百八十三年七月三十一日八月一日ノ法律ヲ以テ行政官ノ職務權限ト行政裁判ノ組織管轄又行政訴訟ヲ許ス事件ヲ逐一記載セリ夫レ獨逸法ノ如キハ簡明ニ似テ實ハ錯雜ヲ免レス且各國ノ行政ハ尤モ異同多シ故ニ日本ノ如キハ今直ニ之ニ倣フコト亦易カラス故ニ先ツ司法ト行政トノ性質上ヨリ區別スヘキ要領ヲ説カレンコト乞フ

附ノ云日本モ各府縣廳ニ府縣會議員ノ中ヨリ凡五人計ヲ撰擧ノ常ニ廳下ニ在ル常置委員ナルモノアリ

今聽クテ願フ所ハ第一。行政裁判所トナス種類ノ性質第二。行政裁判所ノ構成要素第三。獨逸ノ制度孰カ優ル

七 裁判ノ効力ハ目的ノ權利ヲ遂ケ得ルコトニ在リ其遂ケ得ルコトハ確定後ノ權制執行ニ依ルコト無論ナリ併シ訴訟ヲ爲スニ至ルヘキ被告ハ豫メ財産ヲ隱匿スルモノ少カラス故ニ之ヲ救フノ方ハ起訴前及訴訟中ニ在テ押置又ハ臨時處分ヲ爲スニ在リ而シテ押置臨時處分ノ法律ハ獨逸法已ニ善ナリト思フ別ニ高説アリ哉

八 佛訴訟法ニハ占有ノ訴訟ト所有ノ訴訟ヲ區別シ決シ合併ヲ許サスト明記ス獨逸法ハ余之ヲ知ラス然レモ必別立ヲ要スヘキモノト信ス

九 日本ニ於テ民事上ノ勸解ハ區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス而シテ獨逸ニテハ地方裁判所モ時トシテ和解ヲ試ミ各町村ニハ無給榮譽ノ仲裁人ヲ置キ民事及罵詈毆打等ノコトヲ和解セシメ而シテ民事ニ付テハ調書ヲ作り權制執行ノ威力ヲ與フ右獨逸ノ法律ハ實際ノ利害得失如何思フニ或ハ日本モ漸次此法ヲ採用スルコト可ナラン

十 仲裁々判ハ日本ニテ至テ稀ニアレモ人民一般ニ之ヲ好ムノ風ナシ併シ其法律ハ訴訟法ヲ設クルニ續キテ定ムヘキ乎否

十一甲 訴訟ノ喚出書類ノ送達ハ日本ニ於テモ裁判所執行吏ノ任スル所ナレモ未ダ完全ノモノニ至ラズ獨逸ノ送達規則ハ佛法ニ倣ヒ新設シタルニ攻撃説多ク已ニ昨年各議院へ改正案出タリト聞ク併シ到底此取扱ハ原被告ヲシテ自ラ任セシムヘキモノト思フ如何

十一乙 過日ノ賞書中ニ民事裁判ハ裁判官獨立ノ言渡スト是陪審ヲ用ヒサルノ意歟日本ニ於テ刑事ニ陪審ヲ置クヘシトノ議論大ニ行ハレタレヒ余ハ之ニ反對セリ民事ノ如キハ猶更陪審ヲ用ル要ヲ見ス敢テ問フ獨立トハ陪審ヲ非トスルノ意ヲ含ム歟

十二 先生ノ三好君ニ説レシ中ニ舉證手續マテニ如何ノコトヲ申立ツルモ豫審終結ノ時斷言陳述スル所ノミヲ以テ判決ヲ與フ云々はレ所謂口頭審理ノ原則ニ從フ歟余モ飽マテ口頭審理ヲ是トスルモノナリ凡訴訟法ヲ作ルニハ先ツ口頭審理又ハ書面口頭混同審理歟ノ原則ヲ定メサレハ到底細目ノ生スヘキ大本アラス敢テ問先生モ果ソ口頭審理ヲ取ラル、哉獨逸ニテ老學士中ニハ之ニ反對スル説不少ト云フ如何

十三 訴訟ノ能力有無ヲ法律上ニ定ムルコト必要ナリ然ニ能力ニ關スル一部分ト云フヘキハ彼代理人ナリ而シテ獨逸法ハ地方裁判所以上ハ必代理人ヲ用ヒシム余ハ不同意ナリ何トナレハ法律ノ解シ難キニ至ルハ人智ノ進ムユヘナリ野蠻未開ノ世ニハ深奥ノ法律アルヘキコトナシ然ラハ現在ノ法律ヲ代理人ニ非レハ天下一人モ通曉スルモノナシトスルノ理ナシ故ニ代理人ヲ用ユルハ各人ノ自由トシ唯裁判官時ニ臨ミ其自ラ不利ニ陥ル如キヲ看認ルルキノミ職權ヲ以テ代理人ニ頼ラシメ次ニ大審院ハ高上ノ法律論場ユヘ必代理人ヲ用ヒシメ而シテ大審院ノ代理人ハ特ニ精選ノ榮譽ノ地位ト爲ス可トス如何

十四 日本モ前時ハ代理人執務ノ裁判所ヲ一定シタリ今何地ニテ執務スルヲ自由ナリトス是亦弊ナキニ非ス獨逸ハ裁判所ヲ限レリト大陸各國ノ經驗孰ヲ可トスル乎

自ラ明白
十五 獨逸法ニ訴訟ノ初ニ於テ訴訟能力ノ有無。法律上ノ後見人有無。不變期限ノ遵守如何。代理人ハ正當ナリ哉。委任狀如何等裁判官最初ノ期日ヲ定ムル前ニ職權ヲ以テ調査スト會テ先生ノ三好君ニ説カレシモ亦此意味歟或ハ主張請求ノ本体ニマテ立入ルノ意乎

所々散見
十六 民事裁判所ハ社會經濟上ノ障礙ヲ裁斷スル直接ノ關係アリ故ニ審判手續ニ於テモ亦經濟ノ點ニ注意セサルヘカラスト余大ニ之ニ敬服ス今敢テ其關係ノ點ハ如何手續中如何ノ部類緊要ナリトノ大要ヲ聽カン

十七 一部ノ訴訟法中學證ノ手續尤モ重要ナリトノコト昨日モ懇々説示セラレ固ヨリ爭フヘカラサル確説ナリ而シテ之ヲ法律中ニ明定スルコトハ實ニ容易ナラサル難事ニシテ之ヲ簡ニスレハ十條前後ニテモ可ナルヘク之ヲ詳ニスレハ數百條ヲ列スルモ猶足ラズ是各國ノ學士特ニ證據論ノ著述多ク之レ有ル所以ナリ而シテ法律上其詳簡ノ宜キヲ得ルト否トハ誠ニ實際ノ利害ニ關係スルコト至大ナリ若シ先生走筆ノ勞ヲ厭ハス訴訟法中ニ置クヘキ舉證ノ一段ヲ明示セラルレハ幸甚

處々ニ説
明アリ
十八 前段ノ如ク余ハ一部ノ明示ヲ先生ニ需ムルノ外聊余ノ所思ノ一二ヲ左ニ列シ以テ教

ヲ乞フ

- 甲 證據タルヘキ性質ノ大要ヲ訴訟法中ニ擧クルヲ可トス佛國ノ如ク之ヲ民法中ニ擧ク
レハ恐クハ非ナラン
- 乙 證據ノ種類ヲ分チ且定ムルコトハ難事ニシテ學士ノ論モ恐クハ未ダ一定セサルヘシ今
先ツ訴訟法ニハ大別ノ獨逸法ノ如ク證人。鑑定人。證書。宣誓。檢證ノ五個トシ而一個毎ニ付
其性質又ハ立章スル方法トナ掲クルコト亦獨逸法ノ如クスルコト可ナラン乎但日本ニ於テ宣
誓證據ノ一法ハ實地有効ナルヘキ乎否大ニ疑フ所ナリ
- 丙 證據ヲ呈出シ裁判官ニ信用満足セシムルハ訴訟人ノ事ニ專屬シ裁判官ハ之ニ注意セ
シムルノ義務ナキモノト明記スルコト然ルヘシトス
- 丁 一般ニ訴訟人ノ使用セント欲スル證據ハ必期日前ニ書面ニ記シ之ヲ裁判官ニ差出シ
期日ニハ必ス其立證ヲ自ラ爲シ如シ期日ニ之ヲ爲サ、レハ自己ノ過咎ニ歸セシムヘシ但
其種類方法ニ付豫メ裁判官ノ許可ヲ受ルヲ要セス
- 裁判官ハ訴訟人ノ使用セント欲スル證據如シ即時ニ爲スコト能ハサルモノナルキハ之ヲ斥
クルコトヲ得ルノ權ヲ有ス
- 戊 訴訟人證據ヲ使用セントスルモノ像メ考定ナク審問中使用セント欲スルコト生ズルキ

六ニ説
明アリ

- ハ必裁判官ノ許可ヲ要スヘシ是裁判ノ徒ニ延滞スルヲ防止スル爲ナリ故ニ審理ノ進行ニ
妨ナキモノハ當然之ヲ使用スルノ權アリ裁判官妄ニ之ヲ抑制スヘカラス
- 已 單純ノ證據ヲ使用スル普通ノ訴訟ニ在テハ證據提示終レハ直ニ判決ニ移ルヘシト雖
モ多數ノ證據ヲ使用シ又ハ臨檢鑒定等ヲ要スルキ決議即判定ノ法式ヲ定ムヘシ
- 十九 證據調ノ終リシ後ハ双方ヨリ自己ノ主張スル事實ハ真正ナル旨ヲ連續シテ結論ス是
ヲ前手續ノ終極トス
- 裁判官其結論ヲ聽キ終リ別ニ訊問ヲ要スル廉モナキハ一應前手續終局ヲ言渡シ而シテ訴
訟人即各代言人等之ニ適用スヘキ法律ニ付陳述シ而シテ後裁判官ハ直ニ判決ス
- 十七ニ於テ已ニ先生ノ勞手ヲ乞ヒタリ而シテ十八及此十九ハ余ノ意見ヲ略記セリ合テ斧正
ヲ乞フ
- 二十 裁判官ハ各證據ヲ取捨シ之ニ束縛セラレス自由ノ心證ニ從ヒ判決ヲ與フルモノニシ
テ眞ノ獨立不羈ナルコト言ヲ待タス然ルニ太々疑フ所ノモノハ獨逸法ニ於ル判決ノ理由書ナ
リ此理由書ニ於テ心證ノ基ク所ヲ明記スル義務ヲ負ハシム其意ニ云フ裁判官ノ放肆ヲ防ク
ト試ニ各國ニ於テ貴重ナリトスル陪審裁判ニ於テ未ダ無罪ノ投言ヲ爲シタルモノニ其心證
ノ基ク所ヲ明言セシムル法アルコトナシ一ニ良心ノ感覺ニ於ル猶口ノ味ニ於ルカ如ク其眞

味ハ文筆言語ニ顯シ得ヘキ所ニ非スニ數人連班シテ審問シ一方チ正ナリ否ナリトスルニモ其基ク所ハ同一ナラサルコ多シ三陪審ニ在テハ其心證ノ基ク所チ言ハシメスシテ人々之ニ安シ裁判官ノミノ連班ニ在テハ其放肆ヲ制止スルチ要ストハ奇怪ノ說ナリ四ニ刑事民事チ分タス判決ハ短簡ニシテ盡スコチ得而シテ其理由書ニ至テハ意想チ摸出スルモノニ付一事件ノ爲メ二三葉乃至六七葉ノ長文ヲ作ラサルチ得ス裁判官ニ在テ時間ト心思チ之ニ費シ他ノ爲スヘキ事務チ妨ルコ少カラス五ニ連班者ノ心證ノ基ク所ハ未タ必シモ同一ナラズ然ルニ例トノ末班者又ハ練習生等ノ記スル所ニ輒ク連署ス之レ心證ニ背カサルチ得サル場合アリ

右ノ理由ナルチ以テ總テ判決文ノ後ニ理由書ヲ作ル獨逸法ハ法理ニ背クモノト思フ聞ク佛國ハ此ノ如キコトナシト如何

二十一 對審上ノ判決ハ素ヨリ嚴重チ尙ヒ一タヒ之チ下セハ動サ、ルチ例トスヘキハ當然ナリ然ルニ獨逸法(二九九〇)ニ一部ノ更正法アリ思フニ是レ實際ニ適シタル法律ナルヘシ日本ノ刑事裁判ニ於テ判決ノ後原裁判官ニ於テ最初ノ判決ノ誤謬チ發見スルキハ更ニ重キ刑ニ科シ又タ輕キ刑ニ改ムルノ法アリ次ニ重キ刑ヲ科スルコトハ之チ廢シ輕キ刑ニ改ル法ノミ存シタリシニ刑法改正ノ際上訴ノ順序チ設ルニ付前法チ全廢シタリ夫レ裁判官モ過失

アルチ免レス故ニ上訴ノ道無ルヘカラス而シテ上訴チ許スニハ必事件ノ種類又ハ金額等ニ依リ制限チ設ケサルチ得ス而シテ其制限チ受ケシモノハ上訴ノ道ナク制限チ受ケサルモノモ其煩勞チ比較シ遂ニ屈服スルモノモアリ實際上訴ノ設アルモ悉ク初審ノ不正誤謬チ改正シ得ヘキモノニ非ス故ニ獨逸法及日本古法チ折衷シ裁判官自己ニ誤判ナリト信シ且其判決未タ確定セサル間ニシテ未タ上級ノ裁判所ニ於テ關係トナラサル前ニ在テハ職權チ以テ本案判決チ一回改正スルコトチ得ト云フ一法チ設レハ如何是各國ニ未タ曾テ有ラサル所ニシテ或ハ攻撃說ノ多キモ亦當然ナリ然共亦實際利益アルコト疑ナシ

二十二 證據トハ事實チ裁判官ニ知了セシムルノ具タルコト貴說ノ通り余モ亦不疑然ルニ佛國民法ニハ證據ノ種類ヨリ其効力ニ至ルマテ記載セリ獨逸ハ其種類チ訴訟法中ニ擧ゲテ其効ノ明記チ爲サス編纂ノ體法律ノ旨趣ヨリ言ヘハ獨逸允當ト思考セリ如何又證據種類ノ大要チ擧レハ其餘程式ノ委曲ナルコト効力ノ如何ハ大略之チ法官ノ判定ニ任ス可シ佛法ハ頗ル古時ノ風習ナリト思フ如何

二十三 保證人ノ義務及連帶義務者ノ關係等ハ素ヨリ民法上ノ關係多ニ居ル故ニ佛國ノ法律ハ之チ民法中ニ列記セリ獨逸ハ如何ノ法律アルヤ余未タ之チ知ラス日本ハ特立ノ法律アリ然レモ完全ト謂ヒ難シ而シテ此ハ訴訟法ニ關係スルコト大ナリ我訴訟法制定ニナルモ此等

ノ法完全ナラサレハ猶善器械アルモ原料不良ナレハ精好品ノ成ラサル如シ而シテ保證人及連帶人ノ義務及訴訟上ノ順序等大畧佛國法律ノ如クニシテ可然乎如何

スタイン氏曰 佛法未詳獨法可ナリ否保證人ニ二様アリ一ハ受人且連帶トント記スルト本人不辨濟後ハト記スルトアリ前者ハ佛法ノ如クスヘシ後者必ス先ツ本人ヲ相手取ルヘシ

問 何日ニ本人辨濟スヘシ若シ其期限ヲ過キ猶不辨濟ナレハ受人云々トアレハ如何
スタイン氏曰 日限後ハ受人ハ直ニ連帶人ト變スヘシ

二十四 期滿免除ノ事ハ佛法ハ之ヲ民法ノ末ニ擧タリ獨逸法ハ余未タ知ラス日本ハ特行ノ法律アリ然レモ亦完全ナラス速ニ改正スヘキモノナリ余按スルニ訴訟裁決ニ依ラス相互ニ信義上取引スルニハ素ヨリ期滿免除ノコアルヘキ筈ナシ唯訴訟ノ上相争フ者ノ爲メ法律上ニ於テ公益ヲ圖リ其期限ヲ設ルニ過キス然ラハ此期限ノ有用ハ訴訟法上ニ在ル耳之ヲ新創又ハ改正スルモノハ必訴訟法ニ屬セシムルヲ善トス如何

二十五 欠席裁判ノ後獨逸法ハ二週間内ニ異議ナケレハ確定トナル佛法ニハ六ヶ月間内執行ヲ爲サ、レハ原告權利ヲ失フト是獨逸法ハ道理ニ適スルニ似タリ是レ多ク生スル缺席裁判ニ付大ニ利害ニ關係スルモノ故ニ明定スルヲ要ス如何

權制執行ノ邊

二十六 獨逸分散法律ハ之ヲ商人ノミニ用ヒ常人ニ用ユル法ニハ非ル乎何トナレハ其施行法律十三條ニ手續開始ハ商業帳簿ニ登記スヘシトアレハナリ

果ノ然レハ非商人ハ各債主ノ押置臨時處分又ハ權制執行法ニ依ルニ止マル乎

二十七 期滿免除法ヲ定ル時ハ素ヨリ裁判ハ其期限ヲ中斷スルコトヲ定ルハ言ヲ待タス更ニ裁判ノ効力即執行ヲ爲シ得ヘキ期限ヲ明定スヘシ而シテ其効力期限ハ如何ニスルヲ允當トスル哉

廿九葉バガテル事件ノ説明

二十八 訴訟伸權ノ途ハ固ヨリ洞開シテ抑塞スヘカラサルコト當然ナリ併争訟求勝ノ氣熾ンナルキハ本來ノ利益ヲ忘ル、コト人情ノ難免ノ患ナリ故ニ佛國ハ治安裁判所ニ少額ノ金錢ニ付終審權ヲ與ヘタルハ頗公益ヲ保護スルモノト思フ而シテ獨逸法ニ區裁判所ニ終審權ヲ付ト聞ク孰ヲ以テ優ルト爲ル哉

五一ニ説明アリ

二十九 相手方ノ用ヒントスル證人ニ付之ヲ排斥スル條件ヲ一方ノ者ニ許スコト佛國法ニ見ユ英國法亦然リト聞ク是頗條理ニ適スルモノト思フ如何

三十 自己ノ授與シタル證書ヲ承認セス又ハ不正ナリト推諉スルモノヲ佛法(二一三)ハ罰セリ我國近來此風大ニ增長セリ宜ク佛法ヲ取り罰スヘキモノト思フ如何
スタイン氏曰 古來論アリシナリ今ヤ單ニ理由ナク承認セスト云ハ取上ケス理由ヲ付テ之

ヲ拒ミ探證ノ上曲ナレハ之ニ入費ト損害ヲ償ハシムルノミ

五一ニ説
明アリ

三十一 佛國ハ契約證書等法律上ニテ必ス作ルヘキ種類多クアリ故ニ訴訟上ニモ證書ノ驗
眞。民事附帶偽造ノ訴。及主タル偽造ノ訴等區別アリ我國亦多分證書ヲ用ル習慣ナリ故ニ此
邊ニ付相當ノ法ヲ設クヘシト思フ高案ヲ乞フ就テハ附帶ノ訴ハ廢止シ偽造ト主張スルモノ
ハ刑事ノ訴ノミヲ許シ附帶ノ訴ナルモノヲ不設シテハ如何

七六ニ説
明アリ

三十二 連班判事裁判會議ノ法モ治罪法ニ記載アル上ハ訴訟法ニモ亦之ヲ載スルヲ可トス
獨逸ノ如キ編制法ニテ民刑通用ヲ爲シ得ルモノハ簡便ニ似タレモ實ハ訴訟。治罪ノ二法ニ
ハ各別ニ記載スルヲ好シト思フ如何

三十三 裁判手續ノ再施(獨)敬慎願(佛)ノ一法ハ必要ニシテ無ルヘカラス。然レモ別ニ先
生ノ高説アラハ聽クヲ願フ

三十四 然リ要スルニ之ノ手續ノ改正ハ多ハ立証手續ノ再施ナリ

三十四 佛法ハ裁判官ニ對シ賠償請求ノ手續ヲ定ム(以下)獨逸法ニハ見ヘス思フニ收賄
又ハ職務ヲ行ハサル等ノ如キ刑事處分ニ屬シ其他訴訟人ヨリ裁判官ヲ相手トシテ訴フル
ハ法律上ニ許サ、ルヲ可トス如何

三十五 執行ハ土地家屋船舶等ニ付所有權移轉法及書入質入法等ニ付關係シ各國同一ナル

一能ハサルモ動産差押。公賣。分配等ニ付定ムヘキ區分ノ要領ヲ聽クヲ乞フ

三十六 不爭訟事件ハ裁判所ノ管轄ニ屬シ訴訟ヲ未萌ニ防止スヘキ旨曾テ先生ヨリ三好君
ニ懇説セラレタリ今其事目ヲ一々示サレンコトヲ乞フ例ヘハ後見。相續。分散。商業帳簿。商人登
記。公告。商業會社ノ管轄。公證人。契約登記等ノ外猶如何ノ事務ヲ不爭訟トシテ裁判所ノ管轄
ニ屬スヘキ哉

三十七 地券帳簿。船籍帳簿ノ如キ日本ニテハ全ク行政官ノ管轄ナリ獨逸ハ裁判所ニ屬ス
踪ノ一事アリ

三十八 諸商業會社ノ設立ニ就キ佛伊等ハ政府ノ許可ヲ受ルヲ要シ英獨等ハ裁判所ノ手ヲ
經之ヲ公ニスルヲ要スト日本ハ舊習ヲ襲ヒ何事ニ依ラス民間ノ事業ヲ爲スニ行政官ノ庇護
ニ依頼シ行政官亦容易ニ之ヲ聞届又ハ許可スル等ノ風アリテ未タ裁判所ノ公證ニ倚ルノ風

ナシ敢テ問フ獨英ト佛伊トノ實驗上利害如何畢竟會社等ニ付人民ノ自由ニ放任セサルハ詐
欺ヲ防キ公衆ノ危害ヲ免レシムルノ意ニ外ナラス然ラハ此目的ヲ達スルニハ行政官ニ於テ
スルト裁判所ニ於テスルト孰カ適當ナルヘキ哉是等ハ實ニ經濟上ニ大關係アルモノナレハ

特ニ先生ノ明解ヲ乞フ

三十九 官吏職務ノ執行上ニ付過失又ハ法律規則ノ誤解等ヨリ人民ニ損害ヲ被ラシメシキ
ノ賠償ノ責ハ総テ官ノ擔當ニ歸ス哉官吏ノ一身ニ止ル哉如シ官ト官吏トノ責任ヲ區別スヘ
キナレハ如何ノ原則ニ依テ之ヲ分ツ哉

四十 雇人雇主ノ事ヲ執行スル時他人ニ損害ヲ被ラシムレハ雇主其賠償ノ責ニ任スルコト當
然ノ法理ナリ然ルニ獨逸法ニテ官吏職務執行上人民ニ損害ヲ被ラシムルキハ第一其爲ニ利
益ヲ得シモノアレハ其者賠償ノ責ニ任シ之レナキハ官吏責ニ任シ官吏資力ナキハ官之
ニ任スト聞ク未タ充分條理ニ適セリト思ハス高説如何

四十壹 先生嘗テ三好君ニ良代言人アレハ公證人ハ要セストノ説アリ蓋是極論ヲセラレシ
モノニシテ猶人ニ智識充分スレハ代言人ヲ要セスト云ニ同キモノ歟目下各國共公證人ハ必
要ノモノナリ然ルニ獨逸ハ代言人ニシテ公證人ヲ兼ヌル所アリ是實際弊害ハナキ歟或ハ公
證人ハ榮譽官吏トノ依頼人ヨリ一定ノ手数料ヲ收メシムルコトシ代言人ヲ兼ネシメサルコ
ト優ルニハ非ラス乎

以上差向余ノ胸裏ニ生シ高説ヲ仰聽カント欲スル所ナリ此餘猶當地ヲ去ルノ後ト雖モ疑惑
アルキハ先生ニ質サンコト願フ豫メ請フ先生之ヲ許容セラレントナ

プロフェッショナル。スタイン先生

松岡康毅

日本訴訟手續ニ關スル問答

スタイン氏曰 日本訴訟法草案ニハ余ノ昨日略記シタル所ノ旨趣ハ遺漏ナク載セアル乎

答 余カ去國ノ際成立シタル草案ハ眞ノ草稿ニシテ其後委員ノ討議致窮スル所ト爲レルヲ以テ如何ニ變換セシ乎ハ知ルヘカラスト雖モ其綱領ハ粗具備シタリシ

スタイン氏曰 三好君ハ全部訴訟法制定ニ先テ財產差押。裁判執行ノ如キハ至急單行ノ法律ヲ設クルヲ要ストノ論ニテ余モ素ヨリ其主張ナリシ今足下モ亦同論乎

答 否然ラス三好君ノ先生ニ會セシ時ニアラハ余モ必同論ナリシナリ今ヤ條約改正及人心ノ企望トニ依リ我政府モ決意シテ全部訴訟法ヲ集成セントシ委員ヲ命シ頗急成ヲ要スル時ナリ故ニ今日余ハ全部ノ訴訟法ヲ完全ナラシムヘキ論ナリ

スタイン氏曰 訴訟法ノ全体中尤モ主眼トスヘキハ舉證方ニシテ舉證方ニ自由ト認識ノ二様アリ各利害アリ其害ヲ云ハ、自由ニ放任スレハ無益ニ不要ノモノヲ堆積スルヲ免カレズ認識方ハ或ハ偏頗專横ノ患アリ

抑訴訟法ノモノタル各人自己ノ事實ヲ裁判官ノ前ニ呈出シ裁判官ヲシテ其事實ノ如何ヲ了知セシムルニ在リ而證據ナルモノハ其事實タル物体ヲ裁判官ヲシテ了知セシムル爲ノ手段ナリ故ニ概ノ之ヲ言ヘハ訴訟法ハ訴訟關係人ヲシテ事實ヲ證明セシムル手續ヲ定ム

ルニ過キス

已ニ事實ヲ證明スレハ裁判官ハ其事實ノ正否ヲ視法律ニ依リ權利ノ在ル所ヲ判決スルナリ故ニ關係人ヲシテ法律ヲ論辨セシムル如キハ不要ナリ澳國ニテ代理人ハ事實ノ陳述ニ止リ法律ヲ論辨スヘカラスト定ム是實際ニハ不適當ノ所モアレモ能ク法理ニハ協ヘリ到底訴訟法ハ關係人自ラ其事實ヲ裁判官ノ前ニ呈出シテ明白ニスルコトヲ爲シ得ル方法ヲ設クルノミ其人ノ如何シテ立證ヲ爲ス乎裁判官ノ如何ニ判決スル乎ノ如キハ是自ラ別論ナリ然ルニ裁判官自ラ其事實ヲ知り得ヘキ方ヲ定ルコトハ至難ナリ澳國ノ十餘年經營シテ其法律ノ未タ成ラサルモノ其患此ニ在リ英佛ノ如キハ否ラズ獨逸ハ其方法猶混淆セリ思フニ日本ニ訴訟法ヲ設クルニハ關係人自ラ事實ヲ裁判官ノ前ニ呈出スル爲メノ簡明ナル手續ノミヲ定ムヘシ條章細密ナル法ヲ定ムルモ都府ノ外田舎ニハ不適當ナルヘシ各國ノ法皆其長スル所アリ學問上之ヲ知ルハ有益ナリト雖モ之ヲ採テ用ルニハ大ニ取捨スルヲ要ス殊ニ代理人ノ法律ヲ論スル如キハ無益ノミ何トナレハ事實サヘ明白ナレハ法律ニ依リ判決ヲ與フルハ裁判官ノ權内ナレハナリ

代理人タルニハ二個ノ才識アルヲ要ス一ハ事實ヲ陳列證明スルト一ハ理非ノ所在ヲ本人ニ指示ストニアリ英佛ハ之ヲ分テ二種ノ人ニ屬ス英ノパリスタ佛ノアボカハ各此二箇ノ

才識ヲ要シ英ノアトルネー佛ノアウイエハ共ニ事實ノ一方ニ止ル而シテ獨澳ハ皆一個ノ代理人アルノミ特ニ佛ノアボカノ如キハ終極ノ際一回ノ演說ヲ爲スニ過キス故ニ二様ノ種類ヲ分ツヲ要セス日本ニ於テハ代理人一種ト定レハ足レリ

問 先生ノ曾テ三好君ニ講說セラレシ譯本此ニ在リ余已ニ其大意ヲ領畧セリ唯譯本ハ前手續終極ニ止リ余ハ其判決及其以後ノ講說ハ未タ知ラス然レモ過日余ノ爲ニ先生ノ手記セシ所モ今譯成テ此ニ在リ依テ余疑點ヲ指定ノ質問セン乎將先生ノ意ニ必要トスル所ヲ以テ說示セラル、手先ツ其判定ヲ乞フ次ニ會聞先生日本ノ爲ニ訴訟法教本ノ起稿アリシト余ハ之ヲ一讀センコトヲ欲ス敢テ許サレンコトヲ請フ

スタイン氏曰 其草稿アリ然レ余ハ其草稿ニ依リ解説ヲ加ヘ毎日三四葉三好君ニ付シ三好君携歸レリ而シテ其原本ハ別莊ニ在リ他日之ヲ示サン

スタイン氏曰 先ツ一二日本ノ事ヲ問ハン足下主張ト要求トノ別ヲ識レリ哉又三好君ハ日本ニ證據ノ法ヲシト云ヘリ果ソ然ル乎

答 證據法ト稱スヘキ完全ノ成文法ハナシ然レモ衆多ノ人民アリ訴訟アリ判決アリ故ニ證據ノ呈出モ取捨モ實際有テサルモノナシ何トナレハ無テハ協ハサルモノナレハナリ唯成文法ナキノミ又實際ノ手續上ニ於テモ證據決議ト采證等ノ判然タル區別ハ未タ一定ノ式

ナシ又要求ハ金錢物品。其主張ハ貸金。賣得其證據ハ證書等ノ區別アルハ固ヨリ熟知セリ。
スタイン氏曰 貸金ノ訴ニ證書ヲ差出シ相手方ハ其證書ヲ認ムルモ曾テ返済期限ヲ三ヶ年
猶豫スル口約アリシヲ證人ヲ以テ立證スルキハ如何且其貸金證書ニ辨濟期限ノナキハ
ハ相手方同ク人證ヲ用ルヲ得ル乎

答 日本ハ權利上萬般ノ取引多クハ書類ニ依ルノ舊習ナリ之ニ反シタル人證ハ互ニ争訟上
無効タルコトニ安ンセリ故ニ之ヲ持出スモノ少シ假令之ヲ持出スモ證書ヲ人證ニ依リ打克
ツコハ能ハサルヲ例トス

又證書ニ返済期限ナキモノハ權利者何時訴ルモ自由タルコトハ法律ノ許ス所ナリ
スタイン氏曰 貸金證書ナクハ證ノミナルキハ如何將之レナキ乎

答 金錢上取引ニ証書ナキモノハ尤多シ唯舊來日本人ノ風習互ニ信義ヲ重シ無證據取引ハ
信用ニ止レリ故ニ近來間々勸解官署へ無證書ノモノヲ持出スモノアルモ相手方之ヲ承認
セザレハ本訴トナラス故ニ訴訟ヲ爲ス位ノモノハ初メヨリ證書ヲ取り證書ヲ取ラサルモ
ノハ其信義ニ依頼シ訴訟ヲ爲サス是東洋西洋風習ノ異ナル所恐ハ西洋人之ヲ聞クモ俄ニ
信セサルヘシ之ニ反シ西洋人ノ人證ニ依ル訴訟ノ多ハ余等ノ怪ム所ナリ
スタイン氏曰 相續訴訟等ニハ書類ナク單ニ人證ニ依ラサルヲ得サルモノアルヘシ

答 日本相續法ノ大ニ西洋各國ト異ナルコトハ曾テ先生ノ三好君ヨリ聽キシ所ナレハ今茲ニ
冗言セズ而シテ相續争モ亦證書類ヲ主トス故ニ日本ニ證人ナキコト雖モ唯人證ハ證
書類ヲ確メ又ハ證書中ノ一部分ノ爲ニスル等ニシテ民事上訴訟ニ單一人證ヲ用ルコトハ無
ト謂フモ可ナリ併刑事ハ之ニ反シ昔時ヨリ人證ヲ專用セリ

スタイン氏曰 日本歴史上ノ事ヲ聞テ余大ニ感スル所アリ併シ此ニハ止マラスシテ後
來必人證ヲ民事ニ用ユルニ至ルヘシ

答 然リ今我國古來ノ風習モ日ニ西洋ノ風ニ移リ商業取引等ハ猶更西洋風ニ近ツキタリ然
レハ無證書取引ヨリ訴訟ニナルヘキモノモ生スヘク否已ニ其兆候アリ故ニ人證ヲ主用ス
ルコト必然ニシテ法律モ亦宜ク之ニ應スル方法ヲ設クヘシト思フ

スタイン氏曰 書類アリ證人アリ然レハ其證人タルヘキト否トノ差別及其證人ヲ排斥スヘ
キ爲ノ證人モアルヘク又書類ノ眞偽其他ノ事ニ付鑒定人モアルヘク隨テ宣誓ノ事モアル
乎是自然ノ勢ナリ

答 然リ證人。鑒定人アリ宣誓モアリ然レハ民事上ニハ未タ別ニ其方ヲ設ケス治罪法實施
以來其方ヲ民事ニモ適用スルニ至レリ但宣誓ノ主義ハ西洋各國ト同シカラス
スタイン氏曰 證書ハ其争ノ物体ヲ證明スルノ具ナリ然ニ其證書ノ眞偽ニ付争ノ生スルキ

ハ其證書一ノ争ノ物体トナル日本ニモ如此ノ區別アル乎

答 珍シカラヌコトナリ證書全部ニ對スル反對證書又ハ一部ニ對スル反對證書トアリ故ニ一方ノ主持スル證書ニ對スル争ノ爲ニハ本案裁判ノ外證書ノ正否効力ノ有無ニ付判定ヲ下スト固ヨリ當然ノコトナリ

スタイン氏曰 君ト今談スル所ニ依レハ三好君ニ説キシ所ハ大ニ改更セサルヲ得ス何トナレハ三好君ト會セシ時ニハ日本ノ實際ニ左程ノ事迄存在セリトハ思ハサリシナリ故ニ彼草案ハ君ニ示スモ益ナシ

答 否然ラス先生ノ説ハ自由舉證ト認識舉證ノ區別トチ主トノ説カレタリ余ノ先生ニ質サントスル所ハ其二個ノ利害ヲ攷窮シ其取捨ノ要領ヲ得ント欲スル耳各個ノ證據等ハ皆固有セリ決シテ西洋ヨリ輸入セントスルニ在ラス

スタイン氏曰 訴訟法ヲ作ル中主眼タルヘキモノハ證據法ナリ證據ニハ證書證人鑒定人宣誓等アリ其レニ付之ヲ順序立ル程式ヲ定ルコトハ一大事ナリ例ハ證書ハ其力證人ニ勝リ鑒定人ハ證人ニ打克ツ又證書ニ公證私證アリ證人ニハ雇人幼者等ヲ除ク等は等チ一々定ルコトハ尤易カラサルコトナリ此種類程式順序等一定スレハ差出ノ前後ニ關係スルコトナシ治罪法ニ證人ノコト定メアリト然ハ其ヲ訴訟法ニ引用シ來ルコトハ難事ニ非ルヘシ

日本ノ證書ハ如何ナル者ナルヤ

答 書入質入等ノ公證書ハ十餘年前舊法ヲ改正シタルモノアリ然レモ汎ク公證ト稱スヘキモノ、一部分ニ過キヌ又其効力モ未タ完備セヌ私證書商業帳簿等モ未タ法律規則ノ有ルモノナシ商業帳簿ノ制度ハ尤モ急ニ定ムヘキノ一ナリ

スタイン氏曰 證文ヲ證人ニテ打消スコトアリ乎

答 一方ノ差出シタル證書ニ付證人ヲ以テ其無實又ハ不正ヲ證明スルキハ打克ツコトアリ然レモ前ニ言ヒシ如ク證書ハ真正ナレモ口約ヲ以テ用捨ヲ受ケシ等ノ證人ニテハ概ノ打消ストナシト云モ可ナリ

スタイン氏曰 偽造證書タレハ專ラ刑事上ノ處分ニ屬スヘシ唯證書ハ授與シタリ併シ醉中ニテ事實ニ差違アリトスル如キキ人證ヲ用ルコトナキ乎

答 必ス手紙トカ何トカ證據ノ端緒又副證アルヲ要ス

スタイン氏曰 抑壓シテ署名セシメシ如キハ如何

答 人證ニ依リ裁判官ノ任意判定スルコトアリ例ハ無賴ノ貧民富家ノ怯夫ニ大金ヲ貸タリト云フキノ如キ是ナリ

スタイン氏曰 已ニ之ニ人證ニテ打克ツコト許セハ彼口約ノ用捨モ亦同一ナラスヤ

答 實際否ス之レ自然ノ風習ニ依ルナリ

スタイン氏曰 幼者ノ證書ハ人證ニテ敗ルヲ得ル乎

答 日本ノ民事上ニ於テ幼者成丁ノ區別刑事上。兵役上ノ如ク判然セス故ニ西洋ノ如ク幼者ノ權利ニ付成文アルヲナシ唯十年乃至十三四年ノ幼者ト契約セシ如ハ素ヨリ人證ニ依リ打消スヲ得レトモナリシモノ、契約ハ特ニ幼者ナルノ故ノミニ依リ人證ヲ以テ打消スヲハ能ハス

スタイン氏曰 已コ言ヒシ如ク訴訟法ヲ作ルニ他ノ部門ハ難キニ非ス唯證據法ヲ實際ニ適應セシムルヲハ至難ノ業ナリ偽造ノ廉ハ刑法ノ處分ニ讓リ又ハ醉中ニ授與ノ如キハ願ルニ及ハス是自ラ取ル所ノミ而シテ如何ノ證書ハ如何ニ證明スヘキ等ノトハ宜ク之ヲ定ムヘシ澳國ニテハ證書ニ對シ人證ヲ許シ又場合ニ依リ裁判官必要ト思フキハ證人ノ證言ヲ命スルヲアリ

問 三好君ヨリ曾テ答ヘシ如ク日本ニ於テ最初ハ目安糾ナル方アリシニ其弊害多キヲ以テ全ク舉證ヲ自由ニ任セタリ而シテ今ヤ復々遲延ト無要ノ弊アリ然ニ先生認識方ヲ説ケリ是當時日本訴訟上ニ付一大良劑ナリ余之ニ就キ猶説明ヲ乞ハント欲ス

スタイン氏曰 然ハ問題ヲ筆記セラレヨ之ヲ一閱ノ後答辭ヲ發スレハ重複ノ患ナク且余モ

順序ヲ立ルヲ得ン

答 諾

是夜ヨリ翌朝迄ニ余卷首ニ掲ケシ題目ヲ走記シ之レヲ獨文ニ譯セシメテスタイン氏ニ送ル

訴訟手續大意講義

訴訟ヲ三個ニ大別スルヲハ君已ニ知了セシ所ナルヘシ他ナシ此皆目的ヲ達スルノ手段タルノミ之ヲ分テハ第一前手續ハ關係人其主張要求ノ事實ヲ擧ケ裁判官ヲシテ明白ニ知了セシメントスル目的ナリ第二判決ハ裁判官其證明セラレタル事實ニ付權利ノ所在ヲ見出し判決スル目的ナリ第三ハ執行トス是各人ノ所有財産ヲ確固ナラシムル目的ナリ此三個ヲ合シテ言ヘハ行政ノ目的ト云フニ外ナラス(アトミニストルチーフ)

問意ヲ推スニ訴訟種類ノ區別少ク不分明ナルニ付略之ヲ説カン夫普通訴訟手續ニ屬スヘキモノハ物体ノ高ニ區別ナク單ニ其請求スヘキ事件ヲ遂ケシムルノ主旨ナリ彼物体ノ異ナルモノ即商事ノ訴訟。爲替訴訟等ハ唯普通訴訟ノ變化ノミ變化ナルモノハ固ヨリ普通訴訟中ニ含蓄スルモノナリ故ニ變化ノ訴訟ニ於テモ亦普通訴訟ノ主ナル所ヲ繰返スニ過キス
普通訴訟手續ニハ凡訴訟上ニ發顯スヘキモノハ悉皆具備セサルヲナク各種ノ訴訟ニ發顯ス

ヘキモノハ之ヲ取扱フ方法チ一々取極ルモノトズ而シテ物体ノ高ニ關係セズ證據ノ一端チ言モ百グルテンモ千グルテンモ全ク同一ナリ故ニ普通訴訟ノ手續明瞭ナル上ハ他ハ隨テ知ルヘシ

普通訴訟ニ於テ裁判宣告ノ前ニ三個ノ目的アリ一ハ訴訟事件ヲ裁判官ニ示スト二ハ其事實ヲ證明スルト三ハ此全体ヲ裁判官ニ知了セシムルト此三個ノ目的ハ必ス無ルヘカラス三個アリテ而シテ後裁判官始テ判決ヲ爲スヲ得故ニ此三個ハ訴訟關係人ノ一モ免ル、一能ハサル所ノ手續ナリ

訴訟起頭ノ手續

訴訟ノ事實ヲ並列スルハ關係人アリテ初テ起ル之ヲ訴訟ノ手續ト云而シテ其手續ハ關係人ニ放任スル、一能ハス必裁判官ノ補助ヲ要ス即職權上ヨリ書類ノ送達手續ヲ爲サシム如シ之ヲ關係人ニ放任スルハ不可ナリ必ス無關係人アリテ其書類ノ送達ノ媒介ヲ爲スヘシ

問 佛國法ニ倣ヒ獨逸法モ亦書類ノ送達ヲ關係人ニ放任シテ裁判官之ニ干涉セズ唯書記執行吏之ヲ補助ス本説ハ之ニ異ル主義乎

スタイン氏曰 獨佛ノ法ニ同シ余ノ云ヒシハ裁判所ナリ即書記執行吏ヲ包ム

初メ訴狀送達ノ時ニ答辯ノ期限ヲ定ムヘシ期限ノ定ハ關係人ニ放任スヘカラス必法律ヲ以

テ之ヲ定ルヲ要ス

被告答辯ノ期限ハ二週間又ハ三週間ト定ムヘシ但其期限ハ多少融通アルヲ要ス何トナレハ重大繁雜ノ事件ナレハ延期スル、一モアルヘシ

答辯期限ハ一定動スヘカラス是レ被告人法律上ニ得タル權ナレハナリ

訴訟ハ本案判決ノ外種々ノ判エントシャイツング定アリ第一裁判管轄、訴訟能力ノ有無等ヲ判定スルノ權ハ

裁判所ニ存スヘク是亦法律ヲ以テ定ムヘシ之ヲ訴訟ヲ補助スル裁判所ノ活テイチヒヤイト動ト云フ而シテ本案判決ノ外ナリ

關係人ハ如何ノ者ニ非レハ爲ス、一能ハサル乎言ヘハ直接ニ請求スヘキ人ニ限ル乎將第三ノ人モ關係人タル、一能得ル乎是レ必ス直接ノ人ノミトス代理人ハ直接ノ人ニ非ス故ニ委任ヲ受ケシ證明ヲ爲スヘク又起訴人ハ直接ノ關係アル證ヲ立ツヘシ

代理人ニ代理ヲ委任スル、一能外代理スルヲ得ヘキ人ヲ法律上定メサルヘカラス即幼者ノ爲ニハ何人起訴ノ權アリヤ(レギヂマナチン)有夫ノ婦ノ爲ニハ何人起訴權ヲ有スル乎ノ類ナリ

次ニ管轄外ノ事件ハ受理セズ訴訟ノ旨越分明ナラサレハ棄却スルノ權裁判官ニ無ルヘカラス此時ハ未ダ訴訟成立タス然レモ法律ニ之ヲ定メサレハ眞ノ訴訟手續ヲ爲ス、一能ハス故ニ

此判定ハ訴訟ノ先頭ニ立ツモノナリ此訴權ノ正否ト管轄ノ二個ヲ訴訟ニ付テノ手續ト云フ

スタイン氏曰 日本ニ此名稱アリ乎

答 管轄違及人妻自ラ起訴スル如ハ之ヲ棄却ス然レモ如此名稱ノ區別ナシ

スタイン氏曰 宜ク名稱ヲ設クヘシ是等ハ博士ノ講説ナレハ無要ナレモ立法ノ爲ニ説クナリ

上來ノ講説ニテ君ノ意ニ適スル乎否

答 善シ然レモ質疑ノ題目ハ猶多シ如此ニ細説スルモハ恐クハ時日足ラサラン願クハ問題

ニ付大要ヲ一次聽キ得シ上餘暇アレハ更ニ委曲ニ渉ルヲ得ン

スタイン氏曰 日時ノ不足トハ成程左モアルヘシ然レモ訴訟法ヲ作ルニハ脈路ノ貫申スルカ爲ニ其大義ヲ述ルナリ君カ伯林ニ往クモ大義ヲ捕ヘサレハ多勞無功ナリ苟モ大義ヲ得レハ暫時實際ヲ觀レハ足レリ君伯林ノ學士ト討論スルモ彼ハ其成文法ニ安シテ一般立法ノ思想ニ乏シ余ハ此頃殊ニ多忙ナリ然レモ君ニ對シ一部訴訟立法ノ大意ヲ明瞭ニ述タキハ余ノ志願ナリ

答 厚意深荷試ニ問余ノ問題ハ猶別ニアルアリ今先生ニ呈スル所ノ問題ノミナラス而シテ

先生ノ大意ヲ説キ盡クスハ凡幾許ノ日子アレハ可ナリヤ

スタイン氏曰 凡ソ二週間ヲ費セハ足ラン然レモ二週間ノ日ヲ君ノ爲ニ全用スルコトハ能ハ

ス君如シ余ノ説ヲ聽ケハ余ハ他ノ人ニ於ル時間ヲ減縮セン

答 先生如シ二週間乃至三週間ニシテ大意ヲ盡シ得ヘキナレハ余モ亦悦テ教ヲ承ケン

スタイン氏曰 君試ニ訴訟ノ起頭ヨリ證據法ニ至迄ノ手續ヲ筆記セハ如何

答 幸甚然レモ日本ノ訴訟法ハ前年來急ヲ要シテ編成セリ故ニ先生ノ筆記ヲ得且講説ヲ聽

クモ余之ヲ携ヘ歸朝ノ日ハ訴訟法已成ノ後ニ在ルヤ計ルヘカラス此豫メ此意ヲ告ク

スタイン氏曰 如此訴訟法ノ成ル切近セシナレハ政府ハ何故君ヲ西洋ニ遣ハシテ訴訟法ヲ

取調ヘシムル乎

答 余ノ爲スヘキ所ハ多クシテ特ニ訴訟法ノ爲ニノミ來レルニ非ス抑裁判事務ノ實際ヲ觀

ルニハ法律ノ大意ヲ知ルコト必要ナリ又法律ハ一定ノ動カスヘカラサルノモノニ非ス故ニ

仮令日本ノ訴訟法現在スルトスルモ先生ノ高説ヲ聽ケハ他日改正ノ資料タルコト能ハサル

ニ非ス是余ノ先生ニ就キ疑ヲ質サントスル所以ナリ

好シ然ハ余ハ先ツ大意ヲ筆記セン

答 固ヨリ願フ所ナリ

スタイン氏曰 質疑ノ問題ニ付一々返答説明スレハ重複ノ患ナキニ非ラス余ハ別ニ順序ヲ立タリ之ヲ説キ上猶疑アラハ更ニ問ハルトセハ如何

答 諾

訴訟手續ノ種類

訴訟關係ニ付第一ニ起ルモノヲ訴狀ト答辯トス次ニ起ルモノヲ立證方法トス而シテ此ハルタイノ手續ハ尤モ明白ニスルヲ要ス立證方法ニ於ケルモ亦然リ

立証方法トハ訴狀答辯ニ於テ各主張スル所ノ事實ヲ證據立ル手續ヲ云フナリ

通常訴訟手續并ニ通常訴手續及簡易訴訟手續ノ別

凡訴訟ノ種類ニ區別アリト雖モ一般通常訴訟手續ニ屬スルモノ多キニ居ル而シテ其手續ニ於テハ訴狀及答辯ノ手續ノ外別個ニ立證手續ヲ爲スコト常トス故ニ通常訴訟ノ手續ヲ定ルルニハ必別ニ立證ヲ爲ス手續ヲ綿密ニ定ムヘシ

通常訴訟手續ハ其事件ノ爲ニ一定ノ終局期限ヲ豫定スルコト能ハス何トナレハ一訴訟中ニ本案判決ノ外幾多ノ判定ヲ要スル場合ヲ生スルヲ以テ自ラ遲慢シテ急結ヲ得難シ故ニ此手續ハ第一多費ヲ要シ第二曠日彌久シテ急結シ難キノ患アリ是ヲ以テ訴訟事件ノ重大ナルモノ

ノミ此手續ニ從ハシメ些細僅少ノ事件ニハ適用スヘカラス君ノ問題中ニ訴訟手續ノ經濟上ニ關係アルコトニ着目セラレタリ此等ノ廉即是ナリ

却説身分上ニ係ル事件即婚姻。相續等ハ價格不定ノモノナルユヘ概ノ之ヲ重大ノ事件トシテ通常訴訟ノ部類ニ加フルコト當然ナリ

訴訟手續ノ經濟上ニ關係アルコトハ少ナラス故ニ事件ノ通常手續ニ屬スヘキト簡易手續ニ屬スヘキトハ宜ク注意スヘキ所ナリ而シテ其孰レニ屬スヘキ乎ヲ定ルニハ事件ノ價額ト手續ノ爲ニ要スヘキ訴訟費用ノ高トヲ比較スヘシ例ヘハ十圓ノ訴訟ヲ通常手續ヲ以テ爲サントスル如キハ之ヲ排斥スヘシ何トナレハ其入費ノ高ハ忽チ權利ノ本体ヲ蔽蓋シ到底得失ヲ償ハスシテ雙方ノ不利ヲ來シ公益ヲ害スルモノアレハナリ

故ニ訴訟手續ノ區別ヲ爲スハ第一訴訟ノ本体ニ非シテ唯其目的ノ價額多少ニ應シテ之ヲ定ムヘシ是一大基礎ナリ之ニ次クモノハ目的ノ特殊ナルニ從ヒ手續ニ差異ヲ生ス

此點ハ即今日本ニ於テ政府モ裁判官モ第一注目スヘキ所ナリ是ヨリ猶其種類區別ヲ説カン通常訴訟ノ手續ニハ獨逸法ノ如ク訴狀答辯ト立證期日トヲ各別ニ分離スルコトヲ得レト簡易手續ハ入費ヲ少ナカラシムル爲ニ必訴答立證ヲ合併スヘシ之ヲ一原則トス是レ一ニハ訴訟ヲシテ急結セシメ一ニハ入費ヲ廉ナラシムルニ在リ

簡易手續ハ別ニ立證期日モ終極期日モナク訴狀答書ト同時ニ證據ヲ差出サシムヘシ故ニ裁判官ノ訴訟ヲ受ル時ハ豫定ノ裁判日又ハ或期日ニ雙方ノ者ヲ立證及事實取調ノ爲ニ呼出ス之ヲターゲザックト云フ。ターゲザックニハ必ス雙方モ出廷スヘキナリ如シ此日ニ本人又ハ代人モ出廷セサルキハ直ニ缺席裁判ヲ爲ス

通常手續ニハ一方ノミ呼出サル、一方アルモ此簡易手續ニハ必雙方同時ニ出廷スヘシ通常手續ニ於テ雙方ノ必出廷スヘキハ豫審終極ノ日ノミナリ

此兩手續ノ異ナル所ハ彼ハ種々ノ期日アリ此ハターゲザックノミナリ彼ハ豫審終極ノ日ノミ出廷ヲ必要トシ此ハ立證モ終極モ皆同日ニシテ其期日モ必ス自ラ出廷スルヲ要セス書面ニテモ可ナリ

バガテル事件

右簡易事件ノ外猶バガテル事件(些細ナルモノ)ヲ定ムヘシ此レハ一定ノ裁判日ニ雙方ヲ出廷セシム此手續ニ屬スル者ハ十圓以内位ノ事件トス

問 同道シテ出廷セサルキハ素ヨリ原告ヨリ呼出狀ヲ送達セサルヲ得サルヘシ

スタイン氏曰 此場合ハ呼出狀ニ出廷セサレハ原告ノ申立ニ依リ判決スル旨ヲ附記スヘシ然ラサレハ小事ニ多日ヲ費スヲ免レサレハナリ

是ニハ入費ヲ省ク爲ニ原則トシテ代理人ヲ禁スヘシ又次ノ原則ハ書面ヲ禁シ口頭ノミニ依ラシムヘシ而シテ書記ハ其要目ヲ調書ニ記ス(書面ニスルモ自由ナリトスレハ簡易手續ト同一トナル)獨逸ニテハ此バガテル事件ノ手續能ク實際ニ行ハル、モ唯此名稱ナキノミ

問

獨逸法ニテハ區裁判所ニ於テハ口頭書面トモ自由トスバガテル事件ノ手續ハ別ニ在ル

平

スタイン氏答 獨逸ニテハ簡易事件バガテル事件混淆セリ併シバガテル事件ニ如シ書面ヲ

出スモ裁判官ハ之ヲ讀モ可ナレ且讀マシテ裁判日ニ雙方ヲ出廷セシメ其日ニ於テ身分

ヨリ事實迄訊問シ且公行シ書記調書ヲ作ルヘシ

問 獨逸ニモバガテル事件ノ法文見ヘサルハ何ソヤ

スタイン氏答 獨逸ニモ明文ナシ他ノ國ニモ未ダ充分ノ名法備ルモノハナシ而レモ余ハ一

國ニ國ノ成文法ニハ拘泥セス學術上ヨリ區別スルナリ

其調書終レハ雙方ヲ暫時退廷セシメ又ハ直ニ判決ス此判決ニ對シ總テ上訴ヲ許サス判決ハ

調書ニ記シ直ニ執行ス

此ノバガテル事件ハ市場等ニテ多々生スル所ノモノニ適當ス併是純手タル民事上ノナリ故ニ仮令些細ノ事件タリモ違警罪裁判行政裁判等ニ就テハ同シカラス

訴訟手續ノ經濟上ニ關係スルヲ是等モ亦其幾分ナリ

簡易訴訟手續

以上通常手續ニ異ナル種類ノ第一ナリ

第二ニ異ナル種類ハ零ホ上ニ説キシ簡易手續ナリ

此事件不大不小ニシテ中間ニ位ス日本ニテ言ヘハ以上以下程ノモノトス此手續ニ第一原則トスルモノハ代理人ノ用否本人ノ自由ニ任スヲナリ尤モ中途ニシテ本人不充分ナルキ裁判官ヨリ注意シテ代理人ニ依ラシムルヲ得レハ強テ之ヲ命スルコトハ非ス第二原則ハ書面口頭亦自由(訴狀ヲ呈出スルキノ一ノミ)ナリ何トナレハ書面ヲ用ルモ代理人ヲ用ユルモ目的ノ金高稍其入費ヲ償フニ足レハナリ

原告書面ヲ用ユレハ之ヲ被告ニ送り答辯セシム答辯ハ被告本人ノ自ラ作ルモ代理人ニ作ラシムルモ亦自由トス

答辯書ヲ差出シタル上裁判日ヲ定ム

原告書面ヲ用ヒタルキハ必被告ヲシテ答辯書ヲ用ヒシム

答 被告ノ答辯書ハ用否自由ニ任スルヲ獨逸法ノ如クスルヲ允當ナラス手

スタイン氏曰 簡易手續ニハ多分證書等アリ故ニ被告ヲシテ答辯書ヲ出サシメ而シテ一應

和解ヲ試ミ和解不調ナルキハ審問ノ日ヲ定メ本手續ニ入ルヲ例トス然レハ被告人ハ口頭ニテ答辯セント欲スレハ自由ナリ

裁判日ニハ雙方出廷シテ公庭ニ辯論スヘシ尤モ書面ニ記載アル事ノ外他事實ヲ主張スルヲ許サス枝蔓滋生シ事件ノ延滞ヲ起スヲ恐ル、故ナリ而シテ是手續ニ就テモ亦調書ヲ作ルヲ勿論調書ト帳簿ハ同シカラズ帳簿ハ書類受附等ヲ記シ調書ハ書記裁判官ノ面前ニ於テ記シ之ヲ朗讀シ本人ニ署名セシムルモノナリ

スタイン氏曰 日本ニモ亦此別アリ乎

答 固ヨリ有リ且日本ノ調書ハ本人ニ署名セシメ猶之ニ捺印セシムルナリ

スタイン氏曰 印章ハ容易ニ偽造シ得ヘシ信據シ難カラン

答 偽造シ難ニ非ス然レハ舊來ノ習慣ニテ其効用モ亦大ナリ且署名ト複用ス故ニ甚佳ナリ
判決ハ書面ニス口頭ニ止マラス此等ノ事ハ定メテ君ノ熟知シテ余ノ説ヲ待タサルヘキモ後説ノ爲ニ聊張本トナスナリ

此手續ニ必要トスルハ目的ト入費ノ比較トニ依リ期日ヲ短近ニスルニ在リ故ニ立證方法ハ必訴答ト共ニ差出サシムヘシ裁判官ヨリ證人ヲ命シ呼出スヲ得ス唯雙方ノ出サント欲スル所ニ任ス雙方ノ者ニ口頭審理ノ日證人ヲ伴ヒ來ラシメ又ハ證人調ノ日ヲ別ニ定ムルヲナ

得故ニ此手續ニ於テ裁判官ノ權力ハ通常訴訟ニ於ヨリ廣大ナリ

判決ハ即日又ハ次日ニ爲スモ可ナリ

此判決ニ對シテハ一回ノ上訴即控訴ノミナリ許スヘシ

上訴ハ成ルヘク各種ノ名稱ヲ設ケサルヲ可トス之ヲ設レハ代言人等動モスレハ之ヲ口實トスルコ至ル

スタイン氏曰 上訴ト故障ノ別ヲ説カンカ聽キ欲スル乎

答 畧知レリ如シ必要ナルヲアルキハ其際ニ聽カン

順序故ニ一應之ヲ説カン故障トハ訴訟ニ付指揮スル命令等ニ對シ上訴ハ本案ノ判決ニ對ス是其大別ナリ命令ニハ上訴ヲ許サス判決ニハ故障ヲ許サス

故障ハ司法ノ行政上ニ屬ス故ニ監督上結局ハ司法大臣ニ終極ス故ニ大臣ハ裁判官ニ對シ下調ヲ爲スヲ得且懲戒罰ヲ行フヲ得(按スルニ本説ハ獨逸ノ裁判官職務ヲ怠ルキハ司法大臣ニ異議ヲ爲シ大臣ハ懲戒裁判ヲ開カシムルヲ得ノ意ト同シカルヘシ)

簡易手續ニ屬スヘキ原因ハ經濟上ヨリスルト身分上ヨリスルノ二個アリ經濟上ヨリスルモノハ證書手續爲替手續商事手續身分上ヨリスルモノハ婚姻ノ類ナリ之ニ附帶スル後見手續ハ後ニ説ヘシ

證書手續

證書手續ハ極テ簡易ノモノナリ原告ハ訴狀ニ主張スル所ノ證書ヲ差出シ裁判官ハ其證書ニ付他ノ立證ヲ用ヒス直ニ判定スルノミ此手續ハ原告ハ公私ノ證書ニ依リ要求ヲ證明ス故ニ必訴狀ト同時ニ差出スヘシ如シ他日差出セハ證書手續ニ非ス

被告其證書ニ對シ偽造ノ異議ヲ爲シ裁判官モ偽造ノ疑アレハ手續ヲ止メ刑事裁判所ヘ移ス又證書ノ効力ニ就キ異議ヲ生スル事アリ

此手續ノ簡易タルハ證書ヲ訴狀ト共ニ差出シ而シテ寫テ被告ニ送達シ期日ニ雙方出廷シ直ニ判決スルコ在リ尤調書ヲ作ルハ勿論ナリ

爲替手續

爲替手續ハ證書手續ト同一ナリ何トナレハ爲替證書モ亦證書ナレハナリ唯爲替證書手續ニハ必拒證書アルヲ必要トス

商事手續

是ヨリ商事手續ニ移ラン此手續ヲ簡易ニシタルモ亦證據ヲ訴狀ト同時ニ差出ニ在リ總テ證書手續ト同シ唯立證物ノ同シカラサルノミ
商事ノ立證物ハ二個ナリ一ハ商業帳簿トシ一ハ物品鑑定人トス如シ書信上ノ訴訟即通信ノ

正否。通信ノ履行ニ關スルキハ全ク證書手續トナル商事上ニ付殊別ナルハ此二個ニ止ル以上皆證書手續ノ部類ナリ

鑒定人トハマクレルノ任ナリ(マクレルトハ商業世話人或ハ仲買人ヲ指スニ似タリ)此マクレルハ商品ノ良否ヲ鑒定シ又相場ヲ評價シ又ハ相場ヲ保證スルモノナリ

業商上ノ手續ニ付テ其帳簿ハ半證トシ宣誓ヲ以テ之ヲ補足スレハ全證トナル宣誓ノ事ハ日本ニアラサルヘシト雖モ今西洋ノ風習ニ依テ説ケルナリ

商事上物質ニ付争アルキハ他ノ證據即鑒定人ヲ以テ之ヲ定ム鑒定人ハ裁判官ヨリ仲買人ニ之ヲ命ス又檢證ヲ爲スモアリ

商事ニ付裁判上ノ管轄ハ亦宜ク區分スヘキ所アリ其理由ハ商事々件ハ一ナラスト雖モ多クハ賣買上ニ係ル而シテ其事件ノ簡易手續ニ入ルヘキヤ通常手續ニ入ルヘキヤノ區域頗ル分明

ナリ難シ依テ其第一原則トスルハヒルマーニ屬スル事件ハ商事裁判ノ管轄トスヒルマートハ商人ノ氏名及ヒ商業等ヲ裁判所ニ設ケアル商業登記簿ニ記入スルヲ云其他ハ通常手續乎或ハ簡易手續ニ屬ス

スタイン氏曰 商業登記簿ハ日本ニモ有ル乎

答 之レ無シ余ハ兼テ其必要ヲ感セリ多少商人ノ詐欺ヲ防キ信用ヲ確メ流通ノ本ヲ開クノ

益アレハナリ

スタイン氏曰 然リ日本モ必ス商法ヲ制シヒルマーノ法モ説クヘシ實ニ商業登記簿ハ必要ニシテ裁判所管轄ノ根元ナリ

ヒルマー即登記簿ニハ如何ナル人登記スルノ權アリヤ余ハ博士ノ資格ヲ以テハ其權ナシ唯物品ヲ一人ノ爲ニ止ラス汎ク一般ノ人ニ賣買スル事業ヲ營ム所ノ人ノミ登記スルノ權アリ

問 商人登記簿ニ記入ヲ爲サレハ之ヲ罰スル國多シ會社ノ如キ尤之ニ屬ス是其目的ノ主タル所ハ之ニ關係ヲ爲ス他人ヲ保護スルノ點ニ在リ然レハ苟モ義務ト云フヘキニ非ル乎

如シ權トセハ登記セサルモ責ムヘキ理ナシ

スタイン氏曰 義務トスレハ誰カ能ク之ヲ責ムルヤ(按スルニスタイン氏法律ヲ以テ商業ヲ一定スルコト能ハス故ニ責ムルコト能ハスト云フ意ナリ)

之レ一個ノ權ナリ其理由ハ何人ニテモ登記シタルモノハ自己モ亦一定ノ商業帳簿ヲ保持スヘキ義務アリ又商事裁判ヘ訴テ爲シ自己ノ帳簿ヲ以テ證トスルノ權ヲ得レハナリ

此登記ノ届出アルキハ裁判官其登記ヲ許スヘキト否ヲ判定スヘシ曾テ法律ヲ以テ登記スヘキ種類ヲ定メント試シアルモ商業ト工業ノ區別ハ甚タ定メ難シ到底裁判官ノ判決ニ任スヘキトス

問 實ニ商業工業ノ區域ハ分別ニ苦ム今其原則ヲ聽カン

スタイン氏曰 判然一定ノ區別ハ難シ各國トモ商人部中ニ入ル、ト否トニ就キ異同少カラ
ス先ツ一般一己人ニ限ラス何人ニ對シテ之ヲ賣却スル目的ヲ以テ物品ヲ買入ル、モノハ
之ヲ商業ト看ルヘシ

登記ニ一己人ニ關スル者ト結社ニ關スル者トノ別アリ一己人ノ分ハ別ニ解テ費サス
會社ニ三個アリ一オツペチル會社ト云社員ノ總氏名ヲ用ヒテ登記ヲ爲スニチスチルレ會
社ト云社員中一人ノ事務ヲ取扱者ノミ登記スニチコンマンチットト云フ此會社ハ無限責任
ナリ第二ノ會社ハ有限責任ナリ

コンマンチットノ社員ハ分配ヲ得ル所ヲ利子ト云ハスシテ利益ト云フ此外ニアクチーン(株
式會社)アリ是即佛ノ無名會社ナリ無名トハ一己人ノ名ヲ稱セサルヲ云フ維納鐵道會社ト
云フノ類ナリ

右ノ如ク會社ニ數種アルモ其社員間ノ爭訟ハ皆商事裁判所ノ管轄トス
以上商事上裁判管轄ノ二個アルヲチ説ケハ一ハ登記ヨリ生スルコト一ハ會社々員間ノ爭訟是
ナリ

問 登記ヨリ生スルトハ商號商標ノ濫用又ハ商人タル身分等ノ事乎又ハ登記シタル商人ノ

事業ヨリ生スル事件ヲ指ス乎

要スルニ以上商事手續ト云フモノハ即簡易手續ノモノト同シク最下等裁判所々轄ニ屬ス
ルノ意乎將タ商事裁判所中ニテ唯手續ヲ簡易ニスルノ意乎

スタイン氏曰 普通裁判所々轄トス特ニ商事裁判所ヲ設クルハ商業繁華ノ地ノミ
爲替裁判トハ爲替上ノ爭訟コシテ多クハ商人間ニ起ルモノナレトモ爲替ハ非商人モ亦之ヲ爲
スヲ得而シテ非商人ニテモ爲替上ノ爭訟ナレハ猶商事裁判所ノ管轄ニ屬ス
以上商事ニ付説キタレトモ商法有ラサレハ此等ノ手續定ムヘカラス日本ノ商法ハ如何ニ制定
セラル、乎知ルヘカラス然ハ此手續果シテ用ニ中ルヤ否豫定スヘカラス

占有ノ訴ト占有妨害ノ訴トノ別

問題中ニ所有ノ訴ト占有ノ訴トノ別云々トアリ之レ固ヨリ有要ノ問題ナリ而レモ獨逸法ニ
ハ此ノ區別ナシ佛法ニハ之ヲ分ツ佛法優レリ唯佛法モ未タ盡サ、ル所アリ然レトモ先ツ佛法
ヲ概説セン佛ニ占有ハ權利證ニ同シトノ語アリ或人現ニ一物ヲ占有スルキハ他人之ヲ取ラ
ントスルニハ必自己ニ所有權アルヲチ證明スヘシ證明アル迄ハ依然占有者ヲ所有者ト看做
ス是一大原則ナリ故ニ佛ニテ占有ハ自ラ所有ヲ證明スルヲ能ハス然レトモ所有ハ自ラ占有ヲ
證明スルヲ得ト何トナレハ所有者ハ固ヨリ占有スヘキモノナレハナリ

此ニ至テ所有占有ノ訴ニ一大差ヲ見ルヘシ抑占有トハ唯事實上ノ關係ナリ唯其物上ニ手ヲ置クノ關係ノミナリ

故ニ細論スレハ佛ニハ占有ノ訴ハナクシテ占有妨害ノ訴ハアルモノトス占有妨害トハ譬ヘハ余此烟函ヲ現有スルニ突他人來テ取去ルキ余訴訟ヲ爲ス之レ占有妨害ノ訴ナリ又甲乙ノ家ヲ借ル乙之ヲ丙ニ賣ル丙來テ甲ノ立退ヲ求ム甲ハ期限内ナルヲ以テ應セズ故ニ丙之ヲ訴フ是占有ノ訴ナリ此占有ハ權利ノ關係ナリ佛ノ占有ノ訴ト云フハ其實占有妨害ノ訴ニシテ事實上ノ關係ノミ此區別ハ善ク明瞭ニスルヲ要ス

今此烟函ヲ取去ラントスルニ遭ヘハ余何年月日何人ヨリ之ヲ買得タリ又ハ贈與ヲ得タリト所有ノ權利ヲ證明スルニ違アラズ直ニ彼ハ我占有ヲ妨害スト云フ訴ヲ爲スヘキノミ占有ノ訴トハ其含メル所甚タ廣ク通常ノ訴訟ハ概此部中ニ入ルヘシ貸金ノ辨濟ヲ求ルノ訴ノ如キ亦占有セントノ訴ナリ又他人ノ家屋中ニ傘ヲ遺シ置キ之ヲ取ラントスルニ家主之ヲ拒ムキ之ヲ訴ル亦同シ

問 占有妨害ノ訴ト占有セントスル訴ト所有權ノ證明ノミヲ爲シ占有セントナ併セ求ムルトノ三個トスルノ意乎

スタイン氏曰 余ノ占有ノ訴ト云ハ即所有權ノ證明ヲ要ス占有ノ訴ノ外所有ノ訴アルニ非

ラス

占有ノ訴ニハ必所有權ノ證明ヲ爲サ、ルカヘテテ其證明ヲ爲スニハ通常手續又ハ簡易手續ノ二個ニ入ルヘシ

占有ノ訴ハ必所有權又ハ契約ヲ證明スルニ依テ成立ス占有妨害ノ訴ハ唯何人果シ占有セシヤノ一事ヲ證スルニ止リ眞ノ所有權ハ何人ニ在ルモ之ヲ論スルニ及ハズ故ニ概ノ簡易手續ニテ止レリ立證方モ僅カニ證人ヲ呼出スノ外他ノ證據ヲ用ユルヲ稀ナリ占有ノ訴ハ煩雜ノ立證方法ヲ要スルヲ居多ナリ故ニ通常手續ニ依ルヲ例トス

占有妨害ノ訴ハ獨リ動産ノミナラス土地占有ノ妨害ニ於ルモ亦同一手續ナリ譬ハ甲乙相接スル土地アリ其占有ヲ異ニスルキ甲者乙者ノ境畛即境石等ヲ踰エテ侵ス乙者ハ其所有權ノ證明ヲ須ヒス境石ヲ以テ徑ニ占有ヲ證スヘキノ類ナリ

曾テボアソナード氏占有所有ノ講義アリ余毎ニ忘ル、コ能ハズ故ニ試ニスタイン氏ニ問ヒタリ然ニ氏ノ說亦如此夫レ我訴訟手續上ニ未ク占有所有ノ區別ナシ隨テ立證方法亦一定セズ故ニ總テノ手續簡易ナルコ能ハズ不要ノ證明ヲ爲シ煩雜ニ涉ルコ少カラス如シ善ク此區別ヲ爲セハ實ニ公益少小ナラス

尤竊ニ境石ヲ移スモノハ是刑事ノ處分ニ屬スヘシ境石境木ノ類ハ宜ク豫メ設置セシム可ナ

スマイン氏曰 日本ニ於テ是等ノ爭論アルキハ如何

答 日本人ハ古ヨリ土地ヲ重ニスルコト實ニ非常ナルヲ以テ如此ノ爭論ハ毎ニ多シ而シテ土地ノ所有ヲ證スルニハ第一官授ノ地券アリ又土地ノ面積廣狹ヲ證スルニハ各村明細地圖アリ實地ニハ標石立木植籬並木小畦アリ爭論ハ多ク此等ニ依テ判決セラル而シテ時ニ臨檢ヲ用ルコトアリ唯未タ此等ノ訴ヲ占有妨害トシテ簡易手續ヲ用ルコトナシ

水車營業ノ水アリ水上ノ地主之ヲ引用スルキモ亦占有妨害ノ訴ニ同シ又舊水車ノ用水ヲ新水車ニ引用スルキモ亦同シ併シ水ノ物タル流去不滯シテ占有ニハ非ス使用權ノミナリ道路ヲ造作スル爲メ土地ヲ買収スルハ妨害ニ非ス公益ノ爲メニ爲ス所ノ行政上ノ處分ナリ然レモ澳國ニテ往々鐵道會社ノ未タ許可公告ナキニ先テ道路ニ着手スルコトアリ此時ハ妨害ノ訴ヲ爲シ得ルモノトス

澳國ニ於テ自己ノ林樹ヲ他人ノ伐取ルニ對シ三十日以内ニ在テハ占有妨害ノ訴ヲ以テ取戻スコト得是ヨリ以後ハ先ツ所有權ヲ證シ然後取戻スコト得是ヲ以テ占有妨害ノ訴ト占有ノ訴トハ簡易手續ト通常手續ニ依ルノ大別アルコト知ルヘシ

(疑問)澳國ハ一般ノ訴訟ニ皆此占有妨害ト占有ノ訴ノ名稱ヲ附シ大別ヲ爲ス乎

今貴説ニ依レハ普通要求權ノ訴ハ悉皆占有ノ訴ニシテ現物ヲ横奪セラル、キハ占有妨害ノ訴トシ即佛ノ所有權ノ訴ヲ占有ノ訴トシ其占有ノ訴ヲ占有妨害ノ訴ト改稱スルニ止ル乎

占有妨害ノ訴ハ金高物品ノ多少ヲ分タス悉皆簡易手續ニ依ラシメ占有ノ訴ノ權ハ其目的ノ多少ニ依リバガテル簡易。通常ノ二手續ニ依ラシムル乎又此ニ所謂簡易手續トハバガテルモ包含スル意乎

問 右伐木ニ三十日内外ヲ以テ手續ヲ異ニス他ノ妨害訴ニ付テノ期限ハ如何

スマイン氏曰 總テノ場合ニ占有妨害ノ訴ハ妨害ノ日又ハ知り得タル日ヨリ三十日トス但知得タル日ハ必ス證明セシムヘシ

婚姻事件

婚姻事件ハ西洋ニテ重ニ寺院ニ屬ス故ニ日本ニハ設ケスシテ可ナリ

問 余ノ問題ニ一端ヲ啓キシハ離婚破毀及ヒ有無効等裁判上ノ手續ナリ本説ハ結婚ノ儀式乎將タ婚姻上ノ訴訟迄包含スル乎

夫社會ノ成立ハ夫婦ヲ以テ本源トス夫婦ノ身分ハ婚姻ニ依テ固定ス故ニ東洋ニ於テ夫婦ハ人ノ大倫ト稱ス故ニ重ニスヘク又慎重ニ至リナリ日本ニ於テ輒近夫婦ノ離合甚ク

輕薄ニ趨キ議者ノ大ニ憂テ良法ヲ探求スルノ際ナリ
願ニ獨逸ハ憲法ヲ以テ僧侶ノ婚姻ニ於ル權勢効力ヲ認メス之ヲ行政權中ニ収メ婚姻上ノ
訴訟ハ一種異狀ノ手續(檢事之ニ關涉)裁判官モ自ラ證據ヲ探求シ徒ニ双方ノ自認ヲ取
ラサル類)ヲ設ク是至當ノ良制ト思フナリ

日本ニテモ一方ヨリ訴訟スル離婚ハ充分ノ理由ナケレハ裁判所ハ之ヲ許サス然レハ相對
ニテ分離スルキハ行政官吏へ届出ノミニテ終ル余ハ双方熟談ニテモ分離スヘキ理由ヲ裁
判所ニ證明スルニ非レハ許サスト爲セハ可ナリト思フ如何

スタイン氏曰 双方共眞ニ得心ノ上分離セントスルモノハ裁判所へ双方並ニ證人トモ出頭
ノ一方者壓抑強制ナキヲ認レハ之ヲ許スヘキモノトスヘシ是日本男權女權ニ克ツユ
ヘ尤必要ナルヘシ西洋モ加特宗ハ離婚ヲ禁スレハ他宗ハ之ヲ許シ又双方熟談ノ上ナレハ
裁判所ハ之ヲ認ムルモノトス

裁判所ニ於ケル行政上ノ審理處分

以上訴訟種類ノ大別ヲ舉テリ此外其性質ハ行政上ノモノニシテ而シテ必ス裁判所ニ於テ管
掌スヘキモノアリ其類ヲ舉レハ四個トス即後見人。失踪者。遺留財産。分散ノ處分是ナリ此四
個ノモノハ皆原被告兩造ノ訴訟アルニ非ス故ニ訴訟法ノ部門外ニ特別ノ法ヲ設クルヲ要ス

此手續ハ行政上ノモノナリ然ニ文明國ノ俱ニ之ヲ裁判所ニ屬スルモノハ何ソヤ是其成立概
子權利上ノ争アルモノナレハナリ

余嘗テスタイン氏ノ三好君ニ對シ本説ノ意ヲ詳解セシヲ知ル故ニ今細問セス

スタイン氏曰 此四個ノモノハ孰モ事實煩雜ニシテ輒ク數日間ニ説キ盡クスヘキニ非ス今
單ニ其大概ノミヲ説カン蓋シ君モ亦日本ノ爲メニ此等ノ事ヲ取調フル乎

答 相續ノ事ハ獨佛。英等ノ法律ヲ反譯シ以テ參攷ニ供スレハ中々容易ニ日本ノ舊慣ハ變
改スヘキニ非ス故ニ余ノ此四個中ニ付尤注意スルモノハ分散方法ナリ
スタイン氏曰 余ノ曰フ所ハ遺產ナリ相續ト少ク異ナレリ

答 日本ニ於テ家名相續ト遺財相續ハ殆ト別ナシ

此ニ付テハ多少改定ヲ要スヘク又世間其論寡カラス然レハ數百千年來數千萬ノ人民家ヲ
立テ國ヲ成シ安寧秩序モ之ニ由テ定ル所ノモノニテ其善習便益又尠キニ非ス一朝之ヲ法
律ヲ立テ打壞スルハ易々タルノミ唯其打壞シテ如何ナル結果ヲ視ヘルキ乎誠ニ豫想シ能
ハサル所ノモノアリ予ヤ所思ナキコ非レハ又暫時ニ説キ得難シ

スタイン氏曰 然ラン予ヤ今此四箇ノ主義如何ハ措テ説カス唯其取扱手續ノ大要ノミヲ
説カン

遺産取扱ノ第一ハ死亡者アルキ官吏其家ニ就キ先ツ死亡ヲ證シ證書ヲ作ル此時三箇ノ場合アリ一ハ當然ノ相続人アルキ一ハ遺言狀アルキ一ハ相続人モ遺言狀モナキ是レナリ

第一 當然ノ相続人アルキハ先其人ヲ定メ財産ヲ分配シ其中幼者アレハ其財産ヲ保護スルヲモ同時ニ定ムヘシ

第二 遺言狀アルキハ其開封ノ期日ヲ定メ異議者申出ノ公告ヲ爲シ異議アルキハ財産目錄ヲ作り異議ノ決定スル迄散逸ヲ防キ決定ノ上ハ分配ヲ爲ス

第三 遺言狀ナキキハ最手數多シ先ツ裁判所其財産保管ノ處置ヲ爲シ相続者ヲ公告シテ督促シ申出アルキハ其權利ノ正否ヲ調査スヘシ(公告ハ獨語ニエテト云フ原羅何語ナリ)

此公告ハ三回ナスヘシ之ニ死者ノ氏名財産ノ大數之ニ對スル權利者ヲ記シ相続人ヲシテ期日ニ申出ヲ爲サシムルナリ

今ヤ余ハ其手續ノミチ言ヘリ相続權ノ當否ハ言ハス夫相続ノ權利ニ異同アルキ手續ハ通用スルヲ得ヘシ故ニ日本ニ援用スルモ齟齬スル所ハ無カルヘシ

此手續ハ判決ナシ故ニ關係人ハ上訴スルヲ得ス唯故障スルヲ得ルノミ

後見人

後見人ハ何人ニ任スヘキ乎如何ノ事ヲ爲スヘキ乎將裁判所ハ之ト如何ノ關係ヲ爲スヘキ乎ヲ説カンニ後見人ハ管財人ト異ナルヲ知ルヘシ人ノ妻タルモノ財産ヲ有スレハ夫ハ之ヲ管理シ且後見人タルモノトス

スタイン氏曰 日本モ亦人ノ妻財産ヲ有スルヲ得ル乎

答 一般ノ財産ヲ有スル權ナシ唯地券公債證書及ヒ公然ノ株式即チ公衆ノ展閱ヲ得ヘキ帳簿ニ記載アル類ハ特有スルヲ得

スタイン氏曰 女子婚姻ノ際父母ノ與フル財産ヲ所有スルヲ得ル乎

答 上答ニ同シ

妻又ハ幼者ノ財産ニ付訴訟アルキハ夫又ハ父其代人トナル然レモ夫ハ妻ノ委任證ヲ要セス父ハ幼者ノ財産ニシテ父ノ自由ニ處分スルヲ能ハサルモノニ付テハ法律上ノ代人ナリ

財産ノ管理ニ止レハ之ヲ管財人ト稱スヘキモ後見人ハ之ニ異ナリ即チ父夫ハ其幼者妻ノ住居教育ノコニ至ル迄責ニ任スルヲ以テナリ

此二者ハ當然ノ後見人ナリ此外ニ遺言ニ依ル後見人裁判所ノ任スル後見人ノ二個アリ當然ノ後見人ハ裁判所ニ出ルモ其正當ヲ證スル爲ノ委任狀ヲ要セス遺言ニ依ル後見人トハ親又別人等ヨリ幼者ノ爲メニ指定スル所ノ人ナリ此後見人ハ裁判所ノ公認アルヲ要ス又父母死

亡シテ遺言ナシ又生存中能力ヲ喪失シタル場合ニハ裁判所後見人ヲ定ムルノ義務ニ任ス是
 ナ裁判上ノ後見人トス
 裁判上ノ後見人ハ二個ノ事ニ任ス一ハ財産目錄ヲ作ル一ハ其財産ニ付損害賠償ノ責ニ任ス
 而シテ其裁判所之ヲ監督シ其財産ヲ保管スルト管理スルトハ亦後見人ノ任ナリ已ニ裁判所
 監督ヲ爲スモ幼者成丁ニ及ヘハ自ラ普通訴訟手續ニ依リ賠償ヲ求ルヲ得後見人ヲ任シ且
 監督スルヲハ下等ノ裁判所之ヲ掌リ猶上等ノ裁判所第二ノ監督ヲ爲ス之レ防奸ノ道ヲ嚴ニ
 スルナリ
 後見人ハ如此義務アリ而シテ被後見人ニ對シテハ權利モアリ即住居ヲ定ムルヲ及相當ノ學
 校ニ上ラシムルヲ等はナリ

分散

分散手續ハ尤モ繁雜ナルヲ以テ其大畧ノミヲ言フソ分散ハ通常手續又ハ簡易手續ニ依
 テ起ル一ハ敗訴ノ後辨償スルヲ能ハサルヲ裁判所ヨリ分散ノ言渡ヲ爲シ二ハ訴狀ニ對シ答
 辨ノ時自ラ分散ノ申立ヲ爲ス三ハアウズグライヒ(半分散)トス是義務者充分ノ辨償力ナシ
 自己ノ全財産ヲ各債主ニ差出シ債主ノ承諾ヲ得テ自ラ之ヲ管理スルナリ各債主ハ固ヨリ諸
 否ヲ決スル權アリ又債主之ヲ承諾スレハ其實分散處分ヲ得タリト同効アリ唯分散ノ言渡ヲ

キノミ

半分散ハ特ニ商人ノ上ニ屬ス商人ハ常ニ自己ノ貸方借方ノ比較ヲ爲スヘキモノユヘ訴訟ア
 ルキハ直ニ自己ノ資力ヲ知得ルユヘニ然リ
 半分散ハ自己ノ名ヲ用ヒ其商業ヲ繼續シ徐々償却ノ途ヲ得又代言人ヲ用ユルニ及ハス隨テ
 入費モ多ヲ要セス分散ハ時日入費トモ多ヲ要シ自ラ主タル償却ニ充ツヘキ財産ヲ減ス
 人ハ自己ノ財産ト負債高トヲ知ルヘキモノナリ故ニ澳國分散法ニ分散申出ヲ爲サ、ルモノ
 ナ罰スル法アリ

分散ノ外ニ之ニ類スル手續一個アリ之ヲモラトリウムト云フ即チ一般ノ償却延期ノ決議
 ナリ例ヘハブルカンノ如キ騷擾アルキハ民間ノ流通停塞スルヲ以テ司法大臣ヨリ何月間辨
 償延期ヲ公布ス是内閣ノ決議ヲ經ルナリ急劇ノ際法律ヲ制スル違アラス一時行政上ノ決議
 ナ以テ之ヲ爲ス

分散手續ハ第一分散ノ決議ヲ爲シ次ニ公告ヲ爲シ。財産管理人ヲ立。管理人ハ代言人ヨリ擇
 フテ可トス。管理人ヲ任シタルキヨリ本人ハ總テノ處分權ヲ停メラレ他人ニ辨償シ又他人
 ヨリ辨償ヲ受ルヲ能ハス是第一ノ手續ナリ次ニ管理人ハ分散人ノ財産ニ付目錄ヲ作り又貸
 高借高ノ表ヲ作り之ニハ皆其氏名ト事由トヲ記スヘシ

分散権利者ノ班位ハ之ヲ分テ三級又ハ五級トス通例之ヲ三級トス以テ辨償満足ヲ得ルノ先後ヲ定ム第一級ノモノハ分散總高ヨリ金額ノ生スルニ隨テ之ヲ取ル雇人工夫ノ雇給料醫師ノ診察料代言人謝禮及ヒ租税ノ類ナリ第二級ハ書入質ノ如キ特ニ一定ノモノニ付キ先取權アルモノ第三級ハ總テ先取權ナク第一第二級外ノ者トス第三級中ニ區別アリ一ハ爲替證券二ハ商業帳簿上三ハ計算上ニ起ル請求權トス是レ權利班位ノ別ナリ

次ノ手續ハ先ツ義務者ノ財産ヲ糶賣シテ貨幣ト爲シ又之ヲ保管シ置キ次ニ分配ノ手續ヲ爲ス此手續ハ皆裁判所自ラ爲スヘキ所ノモノナリ

分散ニ付キ攻撃手續ト云フ困難ナル問題アリ姑ク畧説セン此ニ一人アリ義務者ハ已ニ分散ノ身分タルヲ知リナカラ之ヨリ財産ノ贈與ヲ受ルモノアルモ分散權利者ハ之ヲ攻撃スルヲ得攻撃ノ訴ハ通常分散言渡ヨリ起算シ三年ヲ以テ期限トシ之ヲ過レハ期滿免除ヲ許シ攻撃ヲ許サス

分散處分ニ必要ナル處置アリ即チ押置トス是或權利者ノ訴求ニ依テ起ル然レモ判決ハ有ルヲナシ譬ヘハ義務者竊ニ逃亡セントシ又ハ財産ヲ藏匿脱漏セントスルモ權利者裁判所ニ證明シテ義務者ノ處爲ヲ防止スルヲ求ム此ノ場合ニ證明スヘキモノ二アリ一ハ自己ノ權利ヲ證書ヲ以テ證明スヘシ(按スルニ權利ハ證書ニ依リ一見知リ易キヲ要ス他ノ立證方チ

用ユル如ハ急速ニスヘカラス)裁判所ハ其證明ニ依リ被告ノ答辯ヲ待タズ相當ノ證明ト看認ルモ之ヲ許スヲ得ヘハ其逃亡又ハ藏匿脱漏ノ事ヲ證明スヘシ此二者ハ押置處分ノ前ニ不可缺ノ手續ナリ

此場合ニハ義務者ノ異議ヲ許サス故障ハ許スヲ得(按スルニ異議トハ命令ヲ爲ス前ニ意見ヲ聽カサルノ謂ナリ)

裁判所ハ義務者自ラ又ハ第三者ヨリ保證ヲ立テシメテ押置ヲ免スヲ得

故障ハ押置執行ヲ停止スル効チ有セス裁判官原告ノ請求ヲ相當トスル上ハ義務者ノ故障ニ拘ハラス執行ス然ラサレハ悔ユ及ヘカラサルニ至ルヲアレハナリ

押置ハ是司法上行政ノ處分ナリ而シテ此場合ハ常ニ分散手續ノ前ニ生ス其他ニハ至稀ナリ

精神病ニ關スル事件

是ヨリ精神病者ノ事ヲ説カン此ニ原則トスヘキハ何人モ裁判上ノ取調ノ上判定アルニ非レハ安リニ精神病者ト爲サルハナシト是ナリ故ニ精神病者ニ付テハ必ス先ツ裁判所ニ於テ醫師ノ診斷ヲ用テ之ヲ判定スルヲ要ス

精神病者ナリトノ中立ヲ爲シ得ルモノハ何人ナリヤ頗難題ナリ

判定ノ後ハ裁判所ハ之ニ後見人ヲ立其後見人ノ職務ハ一般ノ後見人ト異ナルヲナシ

精神病者ノ自ラ精神病者ト申立ルキ他人トノ契約ノ有効無効ハ私法上幼者ノ契約ニ於ルト同一ナリ

スタイン氏曰 日本ニテ此場合ハ如何

答 自ラ精神病ヲ申立契約ヲ無効ト爲サントスル者ハ其人舉証スヘキノミ

失踪

失踪ノ手續ヲエリクト。フェルフハーント云フ是亦行政上ノ手續ナルユヘ原被告アルトナシ或人ノ所在知レサルキ之ニ對スル權利者即貸家主又ハ貸金者ノ申立アルキ裁判所ハエリクトトテ廢シ公告ス其期限ハ二月三月或ハ六月等長短ハ事實ノ測量ニ依テ定ム其期限ヲ過キ申出ナキハ之ヲ死亡シタルモノト看做シ遺留財産取扱ノ手續ヲ爲ス其後ニ至リ假令本人歸來ルモ意見ヲ申立ル權ヲ失フ

スタイン氏曰 是迄訴訟手續ノ種類并ニ訴訟外ノ司法行政等ノ大要ヲ陳タリ此ニテ問題ノ手續區別云々ハ氷解セラレシ乎

答 講説ハ全然領承セリ而シテ問題第一ハ佛法ハ商事ノ爲メニ一個異常ノ手續ヲ定メ獨法ハ是等ノ爲メニ別異セス同一手續ニ從ハシムルヲ以テ一新發明ナリト誇ル余ハ其果ノ優劣如何ヲ知ルヲ欲スルナリ

右ハ固ヨリ獨法ヲ可トス抑訴訟手續ニ於テハ民事商事ニ區別アルヘキ理ナシ唯商事ハ多分簡易手續ニ依ルヘキノミ然レモ商事タリモ證人鑒定人ヲ用ユヘキ訴訟ハ通常手續ニ從ハサルヲ得ス最其期限ニ付短縮スヘキハ當然ナリ此ハ澳國獨國共ニ同シ佛國ニテハ未ダ注意ノ充分明透ナラサル時ニ制定シ加之組織上大ニ異ナルモノアリシヲ以テ商事手續ヲ別設セシナリ夫レ佛國ニハアボカートアウイ(代書人)ノ一種アリアウイハ本人ニ代リ證據ヲ呈出シ書類ヲ送達領收スルヲ任トスルニ止ル而シテ事實ノ結論ヲ爲スモノハアボカーナリ故ニアウイヲ商事上ニ用ルモ有害無益ノミ英國モ亦然リ澳獨ノ如キハ一ノ代言人アルノミ故ニ商事ノ爲ニ別異ノ手續ヲ設クヘキ要ナシ是獨逸法ノ異ナル所以ナリ

按スニ佛國訴訟法中呼出送達其他ノ手續上繁雜ニ涉ル是實ニ代書人ナル一種固有ノ職業アルニ由ル佛國人モ代書人ノ有害無益ヲ知ラサルニ非ルモ昔時佛國ノ財政困難ナリシ納財ニ由テ專有ノ特權ヲ得今ニ至ル迄之ニ沿襲シ遠ニ其權ヲ奪ヒ難シト是蓋シ數個人ノ爲ニ公衆ヲ顧ミサルモノナリ佛ノ訴訟法ヲ視ルニハ毎ニ此一種ノ物アルヲ遺ルヘカラス問 押置手續ハ證明スヘキ二個ノ條件アリ此二個ノ條件タル急遽ノ際證明スルノ頗ル難シ何トナレハ被告人ハ充分注意シテ秘密ニ爲セハナリ去逆財産差押ハ獨佛ニ裁判所ノ判決アリシ上ニ非ラサレハ着手スルヲ許サス又許スヘガラサルモノナリ然レハ押置ノ一法

善ハ善ナレトモ未ダ豫護ノ道盡セリトスヘカラス故ニ之ヲ補足スルニ獨逸法ノ如ク證書手續及辨償督促手續ヲ特ニ明定スルハ大ニ有効法ト信ス如何

スタイン氏曰 證書手續及辨償督促手續ヲ設ルヲ問ノ如ク有益ナリ序ニ云フ辨償手續ノ命令ハ裁判所ノ委任ノ如キモノナレトモ必ス遵行スヘキモノニモ非ス故ニ眞ノ委任ニモ非ス又判決ニモ非ス故ニ直ニ執行スルヲ能ハス今警察吏一事ノ妨害者ヲ制止スルヲ請フヨリモ効力薄弱ナリ又爲替ト證書手續トハ少ク別アリ爲替證券ハ其證券ヲ證トシ直ニ執行ヲ爲スヲ得證書ハ公ト私アリ私書ノ中ニハ直ニ執行セシムヘカラス又判決モ輒ク下シ難キモノアリ

スタイン氏曰 以上訴訟法ノ主義トモ謂ヘキ各種類ヨリ裁判外ノ事務迄大体ヲ陳タリ此ヨリ普通訴訟中ノ各手續。立證終極手續等ヲ説クヘキ順次ナリ而シテ引續キ前ノ如キ体裁ニテ説クヘキ平將君ノ問題ノミニ付答ヘン平君ノ在留期日ニモ關シ又講説ノ君ノ意ニ適スルヤ否

答 先生屢講説ノ余ノ意ニ適スルヤ否ヲ問ハル余ヤ先生一夕ノ談ニ於ルモ宿疑ノ氷解スルモノ又意思ノ確定スルモノ又新ニ得ル所固ヨリ少カラス且講説ノ順序ハ已ニ先生ノ定ムル所ニ從フヲ言ヘリ請先生説キ去テ復タ問フヲ須ヒス

立證手續

スタイン氏曰 獨逸ノ今日ノ如ク立證ニ付探證ノ決議ヲ爲スト古獨逸法トノ異同ヲ知レルヤ

答 略ホ聞ク獨ノ古法ハ殆ト日本ノ現行ト同シト余ハ獨法ニ於テ普通手續ニハ采證ノ決議ヲ爲シ場合ニ應シテハ受命裁判官又ハ受託裁判官ニ采證ヲ爲サシメ而シテ區裁判所ノ手續ニ於テハ立證モ對審モ同時引續キテ爲ス等ノ手續ニ繁簡ヲ分タハ大ニ佳ナルモノト思フ

證書

獨逸法ノ立證決議固ヨリ善シ佛法モ立證方法即證人證書宣誓等ノコトハ載セタリ然レトモ立證決議ノ要否ハ詳ナラス凡證人ハ必スベハイスペシヤード即裁判所ノ決議ヲ要ス之ニ反シ證書ハ訴狀又ハ答書ニ添付シ差出スヲ得故ニ必ス盡ク決議ヲ要セス而シテ證人訊問ニハ又一ノ手續ヲ生ス

(疑問)證書モ他人ノ手中即相手方又ハ官署ニ在ル類ハ決議ヲ要スヘク又證人訊問ニ一ノ手續生ストハ證人ノ證明スヘキ諸點ヲ決定スルノ謂乎

問題中ニ證書ニ付附帶ノ訴ト偽造ノ訴トノコトアリ證書ニ付眞否ノ争ハ民事ノ裁判ニ屬シ偽造ノ訴ハ刑事ニ屬スヘシ何トナレハ假令證書ハ不眞正タルモ未ダ必シモ偽造ニ非ルモノモ

アレハナリ偽造トハ故意即惡意ヨリ出ルモノニシテ不真正トスルモノハ誤謬又ハ、
ニ成ルモノナリ故ニ不真正ノモノハ雙方ノ經濟上ノ問題ニ止リ偽造ハ刑事ノ處分ニ終極
ス

(疑問) 佛法ハ特ニ民事附帶ノ訴トシテ手續ヲ設ク獨法ハ之ヲ見ス夫レ證書ヲ不真正トシ
テ争フキハ必ス之ヲ證明スヘク其證書ハ一ノ争ノ物件トナル然ラハ爲メニ一手續ヲ設ク
ルモ理アリ而シテ獨法ハ之ヲ言ハサルハ證人ニ對スル異議ト同視シ一ノ立證決議ニ付ス
ルニ過キサル乎又其優劣如何

證書既ニ真正ナルキハ其證書ニ記載スル所ノ事實ハ證明セラレタルモノトス

證人

證人ヲ以テ証明セントスルニハ第一ニ訴狀又ハ答書ニ於テ申立テ爲シ之ニ其氏名住所ト證
明スヘキ事柄トヲ記スヘク而シテ裁判所ハ之ニ依リ證人決議ヲ爲ス其上證人ノ身分ニ付キ異
議起ル即雇人又ハ親屬等ニシテ證人ノ資格ニ適スルト否ノ問題ナリ勿論異議ハ證人ヲ使用
セントスルモノ、相手方ヨリ起スモノニシテ裁判所ハ之ニ付復々決議ヲ爲シ證人資格ノ當
否ヲ定ム

凡證人トシテ呼出ノ命令ヲ受クルモノハ必出廷スヘキ義務アリ

第二 證人ヲ訊問スルニハ必ス事件ニ密接スル題目ニ止ル其題目ハ裁判官之ヲ定テ双方ニ
通知ス雙方ノ者ハ之ニ對シ題目ノ増減變更ヲ請フヲ得

立證決議ニハ證人ノ身分ノ當否及ヒ證人ノ證明スヘキ目的ヲ定ムルコト此大原則ナリ如シ之
ヲ雙方各個ニ放任スルキハ訴訟ノ延滯紊亂ヲ免カレズ

立證決議ノ後訊問ノ期日ヲ定メ證人出廷シ書記其陳述ヲ調書ニ記シ證人ニ署名セシム

證人遠隔ノ地ニ在ル場合アリ此時ハ裁判所ハ訊問ノ題目ヲ記シ證人所在地ノ裁判所ニ囑託
シ其裁判所ハ之ヲ受テ證人ヲ訊問シ調書ヲ原裁判所ニ送ル此各地ニ在ル證人ノ容易ニ訊問
シ得ル方法ナリ

凡テ證人訊問ノ調書ハ其寫ヲ雙方ニ送達ス他日ノ違背ヲ防ク爲ナリ證人訊問ハ立證手續中
ニ在リ之ヲ送ルハ終極ノ時ノ注意ナリ

問 雙方訊問ニ立會タルキハ調書寫ノ送達ハ要セサルヘシ是公衆ノ面前ナレハナリ

スタイン氏曰 本人ノ聽漏シ又ハ終極迄ノ間ニ遺忘モアルヘシ故ニ送達スルヲ可トス

問 自己ノ過失ハ自ラ其責ニ任スヘシ彼ヨリ寫ヲ請ヘハ與フヘキモ一般ニ之ヲ送達スルハ

公廷ノ威嚴ヲ汚スニ非ス平飽マテモ公廷調書ヲ真正ト爲スヘシ

スタイン氏曰 然リ必ス送達セサルヘカラスト云フニハ非ス併代官人ハ時トノ見習人ニ代

理セシムルヲモアリ如此ノ際肝要ノ點ヲ見習人ノ遺忘セシ爲メ本人ノ損害ト爲スモ亦正當ニハ非ス

問 證人其他承認ノ后ニ至リ一方ノ者更ニ正確ノ証人ヲ得之ヲ使用セント申立ルキハ如何
スタイン氏曰 承認後ト雖モ未タ判決ナキ中ニ於テ彼ノ怠慢過失ニ非スシテ新ニ有要ナル證人ヲ得且審理ヲ阻碍セサルモノト看認ルモノハ更ニ審問スヘシ

問 訊問スレハ必ス遅延ス實際審理ノ爲ニ阻碍ナキモノハ有ルヘカラス

スタイン氏曰 若シ重大ノ事件ノ如キハ三四日ノ遅延アルモ事實ノ正確ナルヲ得レハ遅滞ハ問ヲ要セス

問 遅滞ハ何日ニ及フヤ豫知シ難シ例ヘハ日本ニテ如此ノ場合ニ裁判官ハ遅滞ナシト思量シ証人ヲ呼出スモ其日證人ハ外國ヘ發航スレハ如何

スタイン氏曰 何ソ傷マン證人ハ何地ニ在リ何日出廷シ得ルトノヲハ申立人ノ知ル所ナリ如シ其際外國發航ノ如キヲアレハ訊問ヲ爲サ、ルノミ

唯自己ノ過失ニ非ルヲ證明スルキハ之ヲ訊問スルモ可ナリ

證人外國ニ在ルキ之ヲ訊問セントスレハ如何例ヘハ澳國日本國ノ領事互ニ其國ニ在留スルモ之ニ訊問セシムルヲ能ハス斯ルキハ之ヲ其國ノ裁判所ニ囑託セサルヲ得ス而シテ其囑託ハ

必條約ニ依ルヘシ西洋各國ノ相接近スルモノハ條約ヲ以テ裁判所直ニ相囑託ス普通ハ外交官ノ手ヲ經ヘキナリ

スタイン氏曰 問題中司法裁判行政裁判ノ區分云々ノヲアリ抑モ此問題ハ實ニ必要不可缺ノ事ニシテ日本ニ於テモ必ス行政裁判ヲ設クヘシ曾テ余ハ此事ヲ伊藤大臣ニ告ク大臣モ亦之ヲ設クルノ意ナリシ而シテ西洋ニテモ此事ニ付テハ充分詳細ニスルモノ少シ而シテ其係ル所重且大ニシテ僅々數日間ニ説キ得ヘキモノニ非ス余ハ甚タ君ニ望ム日本後來ノ爲メニ此大原則ヲ窮メンヲテ余ノ説ハ一國一州ノ爲メニ局セラレヌ君之ヲ窮メント欲スレハ他ニ求メスシテ余ト共ニ之ヲ爲セ而シテ余ハ更ニ君ニ望ム此事ヲ遂ケサレハ歸テ云ハスト決心セラレソトナ

答 余モ深ク日本ニ於テ適應ノ行政裁判法ヲ設ルノ必要ナルヲ信ス

問 先生伊藤大臣又ハ其隨行員ニ對シ行政裁判法ヲ講説セラレシヤ

スタイン氏曰 否此事モ萬國公法。民事訴訟法モ講説スルノ暇ナカリシ唯其一端ヲ説キタリ余曰 此事ヤ余ニ姑ク思考ノ間ヲ與ヘヨ今爲ス所ノ事ヲ終ルキ更ニ決答セン

先ニ證人訊問ハ囑託ヲ以テ外國ノ訊問ヲ得ルヲ説キタリ執行ニ至テハ必ス相互ノ條約ニ非レハ能ハス例ヘハ日本人米國ニ於テ裁判ヲ受ルモ日本ハ之ヲ執行スヘキ義務ナシ

鑒定人

鑒定人ニ付テハ一ノ原則アリテ証人ト同シカラス雙方者ハ鑒定人ノ名ヲ指定スルヲ要セス是裁判所ハ常ニ相當ノ人ヲ定メ置キ又臨時指命スルヲ以テナリ併訴狀又ハ答書ニ鑒定ヲ要スル旨ハ必記セサルヘカラス

一方ノ者鑒定人ヲ以テ證スルヲ要スル旨ヲ申立裁判所之ヲ指名シタルキハ相手方ハ其人ニ付異議ヲ爲スヲ得異議ハ其裁判所之ヲ決ス

鑒定人ノ意見ハ調書ニ記シ又場合ニ依リ意見書ヲ差出サシム譬ヘハ建築事件ノ如ク重難ナルモノ是ナリ

鑒定人ハ裁判所ニ於テ公ニ定置スルヲ可トス是ヲシヤッツマイスラルト云フ但シ鑒定ノ爲ニハ手數料ヲ取ラシムヘシ

證書ノ鑒定ハ普通ニ高等學校ノ習字教師ヲ用フ

檢證

檢證ノ事ハ説ヲ費スニ及ハス多分占有妨害ノ場合ニ生ス裁判官其實地ニ付調書ヲ作ルモノトス

宣誓

宣誓ハ第一、人ノ望ニ依テ起ル而シテ宣誓ノ方式ハ各宗同一ナラス或宗旨ニハ一モ方式ハナク唯眞實ヲ言フ義務ヲ負フノミ故ニ日本ニテ如シ西洋式ノ宣誓ヲ爲セハ是本意ニ違フモノナラン

スタイン氏曰 今日日本ニ於ケル宣誓ハ如何

答 舊時ハ宣誓ノ用至テ廣ク官吏ノ任官技藝ノ徒弟ニ至ル迄皆宣誓ヲ爲セリ而シテ之ヲ神佛ニ誓ヘリ大政一新ノ際ヨリ宣誓ハ殆ント廢絶セシニ治罪法成ルキ更ニ之ヲ起シ自己ノ

良心名譽ニ對シ眞實ヲ言フノ義務ヲ負フ其實ヤ法律ニ誓フナリ

スタイン氏曰 裁判官一方ノ本人ニ宣誓ヲ命スルコトアリ乎

答 ナシ

然レハ余ハ西洋ノ風習ニ依リ之ヲ説カン

原被告本人ノ宣誓ハ必シモ爲スヲ要スルニハ非ス裁判官ノ意見次第ナリ

宣誓ニ三個アリ一證人宣誓ニスブレメンターアイト三主タル宣誓トス證人宣誓ハ裁判官之ヲ命スルキハ必ス違フヘク之ヲ拒ムコト得ス此ノ場合ハ證人ノ陳述ニ付相手方争フキニ在リ此宣誓ハ裁判官ノ前ニ於テ爲シ之ヲ調書ニ記ス然ル時ハ完全ノ證據トナル

數證人ノ陳述相異ナルキ同時ニ宣誓セシムルヲ得ス必裁判官ノ信認スヘシトスルモノニ宣

誓セシム

スタイン氏曰 日本ニモ此手續アル乎

答 無之證人ハ陳述ノ初頭ニ宣誓ヲ爲ス

スタイン氏曰 初頭ニ宣誓ヲ爲シ後ニ虚偽タルコト判然シ又數人ノ陳述相違スルキハ如何

答 相違スルニ證言ノ取捨ハ裁判官ニ在リ又虚偽判然タレハ刑事ノ處分ヲ受ク最モ虚偽ノ

證言モ刑事民事ニ付同一ナラス

然レハ未タ宣誓ノ本意不充ナリ宣誓ニ付二個ノ別アリ一チアイデスタット云フ是誠實

ヲ陳述シ以テ宣誓スルノ準備アリト云フモ未タ宣誓シタルニハ非ス故ニ此時ハ未タ罰スヘ

カラスニハ陳述ノ后裁判官之ニ宣誓セシメタルキハ。チビルクリヒアイドト云フ此後ニ虚

偽者初メテ罰スルコトヲ得

問 證人ハ陳述ノ前ニ宣誓セシメサル乎

スタイン氏曰 然リ唯宣誓準備アリト云フノミ如シ其陳述ニ對シ異議アルキハ之ニ宣誓セ

シメ異議モナク裁判官亦信實ト看レハ宣誓セシメス

(疑問) 證人ノ證言モ亦固ヨリ他ノ證據ト同ク取捨ハ全ク裁判官ノ判定ニ任スヘシ今聽ク

所ハ或ハ宣誓ノ證言ハ裁判官ヲ束縛スルモノ、如シ

初頭ニ證人ヲシテ陳述セシメサル理由ハ如何初頭ニ準備アリト云ヒ宣誓ヲ命スルニ及ン
テ前陳述ヲ變更セハ如何

西洋各國ノ證人宣誓ハ皆初頭ニ爲サル、ナ例トスルカ將タ先生ノ高説乎

原被告本人ニ爲サシムル宣誓ノ原則ハ必ス他ニ不充ナル證據アルキニ非サレハ許サス故

ニ一モ立證方法ナキハ原告自ラ宣誓ヲ爲サンコトヲ請フモ許スヘカラス唯他ニ立證アレハ

不完全ノ種類タルキ裁判官之ニ宣誓セシム之ヲ補足ノ宣誓ト云フ此場合ハ殊ニ商簿ヲ以テ

證トスルキニ多シ此ヲ宣誓ノ第二トス

第三主タル宣誓是ハ判決ヲシテ全ク宣誓ノ結果ニ從テ爲サシム即判決ヲ宣誓ニ違フテ與フ

ルコト能ハサラシム

(疑問) 第二補足ノ宣誓ハ固ヨリ判決ヲ拘束スル威力ナク他ノ一個ノ立證ト視ル乎

西洋ノ風習宣誓ヲ一大重事トスルコト必宗敎ヨリ出シナルヘシ然ニ智識學術ノ闡明ナルニ

從ヒ宗敎ノ人心ヲ籠絡スル繩索ハ漸々汚廢セン然レハ人ハ必道義ノ良心アルモノユヘ宗

敎退テ道義進ム故ニ宣誓ノ旨趣大ニ異ナルモ蓋シ結果ハ同一ナラン唯疑フ現今西洋一般

ニ用ル宣誓ハ概テ宗式ニ從ヒ天神ニ誓フ而シテ其實ヤ誠心天神ヲ畏敬スルヤ將偽誓偽證

ノ人作法律ヲ恐懼スルヤ

二者孰レニスルに宣誓ハ大ニ信倚スヘキモノタル乎將止ヲ得サルニ出ルモノナル乎
 主タル宣誓ハ先ツ原告ニ命ス原告ハ順的ノ誓ヲ爲スヘシ如シ原告之ヲ欲セサル并裁判官ニ
 請テ被告ニ宣誓ヲ求ムヘシ被告ハ逆的ノ誓ヲ爲スモノトス
 宣誓ハ命令ニ非ス勸告ナリ故ニ之ヲ欲セサルモノハ之ヲ爲スヲ要セス
 宣誓ヲ爲スニハ裁判官期日トアブハッスンクト決定メ雙方出廷セシメ之ヲ調書ニ記ス其ア
 ブハッスンクヲ明定スルハ是訴訟指揮ノ決議ナルユヘ本人ヨリ故障ヲ爲スヲ許スヘケレ
 ハナリ

被告ニ反求シタル場合ニハ被告ハ其アブハッスンクニ對シ故障スルヲ許否如何ノ論アリ余
 之ヲ許スヲ可トス

自認

是ヨリ自認ノ證ヲ説カン自認ハ裁判所内外ノ二箇ニ分ツ裁判所外ノ自認ニハ書面ヲ以テス
 ルト別人ニ言語ヲ以テスルトノ二アリ
 別人ハアイドスタットヲ爲シ自ラ聞キン所ヲ陳述シ如シ裁判官之ヲ不充分ナリトスルハ
 宣誓ヲ命ス其自認已ニ証明セラレタル并ハ完全ノ証トナル

裁判所内ノ自認ハ一モ他ノ證明ヲ要セス

茲ニ自認ハ取消シ得ヘキ乎否ノ問題アリ原則トシテ取消スヘカラス但裁判所外ノ自認ハ強
 迫。激怒。泥醉上等ノコナリシテ證明スレハ裁判官ノ判定ヲ以テ之ヲ取捨ス是裁判所内外二
 個ノ別アル所以ナリ

又一ノ自認ノ部ニ附加スルモノアリ相手方ノ主張ヲ攻撃セサル并之ヲ自認ト看做スヤ否ノ
 問題生ス澳國ハ之ヲ自認ト爲ス故ニ代言人ハ毎ニ遺漏ナキ爲メ無益ノ抗論ヲ列ルコト多シ
 スタイン氏曰 君ハ以テ如何トス

答 英國ノ如ク刑事ニ於テ默シテ言ハサルハ何國モ自認ト爲スヘカラサレ凡民事ニ於テハ
 之ヲ自認ト爲スコト允當ナラン

スタイン氏曰 澳國ノ如ク冗論ヲ免カレス如何
 答 是止ムヲ得サルナリ

余ノ見ハ否ス夫レ裁判官ノ目ヲ以テ視ルニ總テ主張スルモノ必シモ真正ノ者ノミナラス又
 攻撃ヲ受ケレハ必真正ナラスト爲スヘカラス故ニ裁判官ハ此際猶主張者ノ證明ヲ要スヘキ
 乎ヲ定ムヘシ然後正否始テ判スヘシ例ヘハ甲金千グルデンノ返辨ヲ訴フ并乙之ニ答辯セサ
 レハ裁判官ハ甲ヲシテ證明セシムヘシ若シ主張ヲ攻撃セサルヲ以テ直ニ主張ヲ真正トセシ

平原被相主張スルニ互ニ攻撃スルヲ遺漏スレハ相衝突スルヲアラン故ニ主張ハ未タ眞否ヲ判スヘカラス必ス立證セシムヘシ

問 已ニ千グルデンノ證書ヲ出シ相手攻撃セサルキハ如何

スタイン氏曰 裁判官證書ヲ眞正ト認レハ可ナリ如シ之ヲ不正ト看ルキハ更ニ之ヲ被告ニ意見ヲ問フヘシ

又此ニ證人アリ主張者ノ賄賂ヲ受ケシヲ裁判官自ラ知り被告ノ意見ヲ問フニ被告黙シ對ヘス去逆主張者ヲ眞正トスルヲ豈難カラヌ乎此時ハ裁判手續ヲ中止シ證人ヲ刑事ニ移スヘシ

(疑問)前ニアイドスタットハ未タ偽證ヲ罰スヘカラスト本説ノ場合裁判官ハ其證言ノ虛偽タルヲ知り故サヲニ宣誓セシメ然后刑事ニ移ス乎否ハ刑事ニ於テモ未タ之ヲ罰スルヲ得サルヘシ

主タル宣誓ニ對シ相手ヨリ之ヲ偽誓ト主張シ而シテ宣誓者之ヲ攻撃セサルキハ自認トスルヤ否ヤ是亦難問ナリ此場合ハ偽誓ノ立證書類ヲ刑事ニ移シ民事ヲ中止スヘシ

偽證ノ立證ヲ爲シ得ルモノアレハ何ソ始ニ之ヲ以テ主張ヲ攻撃セサルヤ但偽誓者相手ノ利益タル證書類ヲ隱匿シタル如キハ格別ナリ

問 民事上刑事ニ係ルヲ發見シタルキ裁判官ハ必之ヲ刑事ニ移スヘキ義務アリ乎將タ民事勝敗ヲ判決スルニ止ルヲ得乎

スタイン氏曰 必ス刑事ニ移スヘシ而ラサレハ其證據不定ナレハナリ

(疑問)證據モ一ニ止ラス故ニ一證僞タルモ他證ヲ以テ本案ノ判決ニ差支ナキモノ少カラス

余ノ前問ハ総テ公ノ官吏タルモノ職務上ニ付公法即チ刑法ヲ犯シタル者ヲ發見スルキハ必ス告發スヘキ義務ヲ負フヘキ乎ノ意ナリ

スタイン氏曰 余ノ今迄說來リシ所ハ君ノ意中ニ於テ之ハ日本ニ實行シ得ヘシト爲ス乎否ニ答 余一己ノ權力ヲ以テ實行シ得ヘシト云フハ固ヨリ能ハス然レモ余ノ意見ニ於テハ之ヲ日本ニ實行セント企望スルモノ多ニ居レリ

スタイン氏曰 余ハ恐ル今說ク所ノモノ君ハ以テ日本ニ實行スヘシト爲スモ日本法律已成ノ後ニ屬シ其用ニ迷ハサルヲ

答 未タ必シモ然ラス何トナレハ編成忽ニセサルモ一大重事ナレハ或ハ頒布ノ日ハ猶多少ノ月日ヲ容レン乎

スタイン氏曰 從來日本人ノ余ニ問疑スル多クハ一事一分ニ屬シ零碎不完ナリ諺ニ云

フ一樹ハ林ヲ爲サスト余是故ニ今回原則ヲ説下スルナリ
法律ノ編成ハ實ニ其地ノ實際ヲ斟酌スル最大要務ナルヲ以テ忽卒撮合スレハ恐クハ完全
ヲ得難シ

答 然リ急ヲ要スルハ時勢ノ然ラシムル所亦不所得止ナリ而シテ余亦竊ニ思フ万一他ノ良法
ヲ參攷スルノ違ナク獨リ獨乙ノ法律ノミ多分ヲ占ンテ無ト謂フ可カラス

スタイン氏曰 原則サヘ明ナレハ決シテ他國ノ法ヲ見ルニ及ハス唯實際如何ニ注目スヘキノ
ミ余ノ説ク所ヲ以テ曾テ三好君ニ説キシ所ト參照セシ手

答 然リ其詳簡ハ同シカラサレトモ大意ハ異ナルヲナシ

スタイン氏曰 然リ彼時ハ已ニ屢言ヒシ如ク眞ノ梗概ヲ擧ケシニ過キサリシ

終極手續

是ヨリ終極手續ニ移ラン夫レ立證ノ手續終了スレハ裁判官ハ更ニ雙方ヲ公廷ニ對立セシメ
テ訊問ス訊問ノ主トスル所ハ一方ノ立證シタル所ニ對シ相手方ヲシテ意見ヲ陳述セシム而
是ハ訴訟全体ニ付雙方ヲ餘濫ナク辨論セシムル所謂終極手續ナリ

問題中ニモ有ル所ノ訴訟上口頭審理ト書面審理ハ唯獨乙ノミナラス各國ノ問題ナリ口頭審
理ハ公行ニシテ書面審理ハ密行ナリ是口頭ト書面ト公行密行ノ分ル、所ナリ

夫口頭書面ノ利害ナ一概ニ是非スルハ大早計ノミ先訴訟中ノ各手續ニ付何々ヲ公行シ何々
ヲ密行スルトノ程度ヲ定メ然後始テ論題ト爲スヘシ

先ツ訴訟ノ種類ニ依テ言ヘハバガテル事件ハ終始トモ公行ニスヘシ簡易手續ハ訴答立證ト
モ公行シ得ヘシ之ニ反シ證書手續及ヒ爲替手續ハ密行セサルヲ得ヌ何トナレハ之ヲ公行ス
ヘキ手段ナキナリ又一訴訟ニ付テ言フモ口頭審理ノ一部分ハ猶書面ヲ用ヒサルヲ得ヌ決メ
口頭審理ト雖モ絶テ書面ヲ用ヒサルヲ能ハス通常訴訟ニ於テ初頭ヨリ悉皆口頭ニ依レハ必
ズ逐一調書ヲ作ラサルヲ得ヌ是已ニ煩雜ナラヌ平而シテ調書ニ付變更正誤ヲ申立レハ彌裁
判所ヲシテ煩擾ナラシメ爲メニ數日ヲ費スニ至ラン故ニ通常訴訟ト雖モ訴狀答書并辨駁再
答辨迄ハ書面ニ依ラシムルヲ可トス

問 訴狀ノ必書面タラシムルコトハ疑ヲ容レヌ答辨ハ必ス書面ヲ要スル乎否獨乙法ハ之ヲ準
備書面ト爲ス

辨駁再答辨ハ雙方ノ隨意ニ任ス乎必ス法律ヲ以テ命スルノ意歟代理人或ハ故ニ多數ノ書
面ヲ交換スルノ弊ナキヲ能ハス

スタイン氏曰 訴狀ト答書ハ通常訴訟手續ノ訴訟ニハ必要ナリ

答書ヲ原告人ニ送達シタル後ハ原告ヨリ辨駁書ヲ送達スルモ又ハ直チニ裁判所ニ開廷期

日ヲ請フモ總テ原告ノ自由ニ任ス辨駁書アルキハ被告再答辨ヲ爲スヲ得此ヨリ以上ハ書
面送達ハ禁スヘシ何トナレハ際限ナケレハナリ併裁判官ニ於テ猶之ヲ必要トスルキハ將
ニ許スヲ得

又立證手續ニ於テモ其証據如シ書類ナルキハ秘行ノ外道ナシ何トナレバ或ハ證書ヲ公衆ニ
示スヲ可トスルコトアルヘキ乎知ルヘカヲサレハ概シテ之ヲ示スヘキモノニアラス余ハ證據
ヲ公衆ニ示サ、ルヲ可トスルノミナラス審理モ亦公行セサルヲ可トス
證人ノ訊問ハ必ス公行スヘシ是公行ハ大ニ證人ノ心意ニ感動ノ影響ヲ及ボセハナリ書類ハ
記載セシモノユヘ常ニ存在シテ變動アルコトナシ之レ證人ト反スル所ナリ
宣誓亦公行ニ非レハ不可ナリ

(疑問)然ラハ上天ノ外主トシテ公衆ノ輿論自己ノ名譽信用ニ關スルニ恐懼セシムル乎
臨檢モ亦實地ニ就クコトユヘ無論公行ナリ

鑒定ハ公行セス秘密ニ爲スヲ可トス
是等ハ皆立證ニ付テノ原則ナリ而シテ雙方ノ活動ニ關スル所ノ事ノミ裁判官之ニ付指揮スル
ニ總テ書面ヲ用ユ勿論是モ通常手續ノミバガテル事件簡易手續ニ在テハ裁判官ノ指揮モ仍
ホ口頭ニテ可ナリ

右ノ如ク各手續中ニモ公行密行ノ兩者並立セリ而シテ終極手續ニ至テハ必ス公行スヘク公行
ニ非レハ不可ナリ

スタイン氏曰 日本モ亦然ル乎

答 十餘年前ヨリ公衆ノ傍聽ヲ許セリ

スタイン氏曰 終極手續モ亦之レ有ル乎

答 名稱ナシ併双方立證ノ末ニ至リ結論スルコトハ自カラ無カルヘカラス

證人宣誓ノ手續ハ孰レモ公行ヲ必然トスルナレハ或ル場合コトハ密行スルコトヲ得即チ女子ニ
宣誓セシメ又ハ證人ニ書面ノ陳述ヲ許スヘキキノ類ナリ然レハ終極ハ如何ナルモノヲ分メ
ス公行ニ非レハ不可ナリ

是故コ口頭書面ハ通常訴訟ニ連絡シテ離ルヘカラス一概ニ利害ヲ言ハ大早計ナリ今其大別
ヲ擧ケ以テ問題ニ對フ

判決

訴答立證終極ノ各手續ノ後ニ生スルモノハ判決ナリ判決ハ判決ニ屬シ訴訟中第二ノ活動
ナリ之ヲ第二ト云ハ此後ニ猶執行ナルモノアレハナリ

裁判所ノ手續即チ活動ヲ分テ三個トス一チ訴訟ヲ指揮スル命令トス之ニ對シテハ双方ノ故

障ヲ許ス故ニ此活動ハ官民上下ニ屬スニテ判決トス判決ハ裁判所ノミノ活動ナリ三ハ上訴
是原被關係人ノミノ活動ナリ

之ヲ約括スルハ頗ル難シ試ニ之ヲ説カン第一ノモノ分テ二トス其一チベシヤイデト云フ訴
訟ノ進行ヲ得セシムル所ノ命令ナリ即チ裁判官ハ法律上ノ定ル所ニ依リ又ハ立證ニ付必要
ナルキ双方ノ取扱上ニ付下ス所ノ命令ナリ此命令中重要ナルモノハ期日ヲ定ムルト立證ノ
命令トス期日ニニアリ一ハ法定ノ期限一ハ裁判官ノ量定スル期日トス期限トハ譬へハ二周
間内ニ云々スヘシトアレハ本人ノ自由ヲ以テ唯其期限中ニ其事ヲ爲セハ可ナリ期日トハ特
ニ指定シタル一個ノ日ニ限ルナリ

ハガテル事件簡易手續ニハ必ス法定ノ期日ヲ定ムヘシ其事件ノ輕小ナルカユヘ尤モ短近ノ
期ヲ適當トス直ニ幾日ト定メ何週間ト云カ如キ期限ヲ用ユヘガラス即チ此ニハフリストア
リテテルミーンナシ而シテ裁判官ハ直ニ法定ノ期日ヲ命令スルノミ爲替手續モ亦之ニ同シ
證書手續ハ法定ノ期日ヲ定メシテ裁判官ノ量定期日ヲ用ユヘシ何トナレハ反對ノ證書ヲ
提出スル如キハ豫定畫一ノ期日ヲ用ヒ難ケレハナリ
期限日ノ定ハ各國同一ナラス要スルニ訴狀ト答書ハ法定ノ期限ヲ用ヒ立證手續ノ場合ニ
依リ裁判官ノ量定期日ヲ用ユヘシ

又通常手續ニ於テハ多分量定期日ヲ用ユ唯上訴ハ必法定ノ期限ニ依ラシメ之ヲ過レハ其權
ヲ失フモノト爲スヘシ其他ノ訊問及ヒ宣誓證人訊問ノ如キハ皆量定ノ期日ニ從フ
裁判官ハ雙方ノ書面ニ付期日ヲ定ムヘシ例へハ訴狀ニ對シテハ二週間内ニ答書ヲ出サシム
ルノ類ナリ

問 答辨ニハ必ス法定ノ最短期限ヲ設クヘシ否ハ答辨ノ準備ヲ爲シ得ス

本説二週間内ト云ハ是テルミーンナリ然ラハテルミーンモ亦裁判官ノ量定アルコト猶法定ニ
フリストアルカ如キ乎

スタイン氏曰 否短縮ヲ許サス

問 訴狀及ヒ答書辨駁及ヒ再答辨ニ付テハ法定ノ期限ヲ設ケ之ニ一任スル乎將法定ノ長短
期ヲ設ケ裁判官ヲシテ其間ニ付キ量定ノ期限ヲ立テシムル乎抑モ總テ裁判官ノ量定ニ一
任スル乎

スタイン氏曰 法定ノミ

問 殊ニ辨駁再答辨ノ如ハ法定ノ期限ニ依ラシムルコト可ナラス乎

スタイン氏曰 答辨期限ハ法上ニ一定シテ裁判官ノ量定ヲ許サス量定ヲ爲サシムル所ハ立
證期日等ノ如ク法上ニ一定スヘカラサルモノノミ

原被雙方ノ者ハ裁判官定メタル期日ヲ伸ンテ請求スルモ裁判官ハ更ニ一ノ命令ヲ爲スヘシ是レ亦期日ノ命令ナリ

此命令ニ因リ懈怠アルモノ生ス凡裁判官ノ命令アルニ之ニ背キ遵行セサルモ之ヲ懈怠ト云フ懈怠トハ唯訴訟ノ不參ニ止ラス

懈怠ニ二個ノ問題アリ懈怠ヨリ生スル結果ハ權利上ニ影響スルコト何ノ程度ニ至ト是ナリ一問ニ懈怠者ハ全訴ノ敗者ト爲スヘキ乎余ハ否ト對フ是全訴ニ關スルニ非ス唯其命令セラレシ行爲ニ付權利ヲ失フノミ例ヘハ立證ニ懈怠スルモ裁判官ハ一方ノ主張スル所ヲ以テ證明セラレタリト視做シ懈怠者ハ更ニ立證モ宣誓モ異議モ爲スコト得ス裁判官ハ此ヲ一段トナシ判定ヲ爲スノミ

懈怠ハ一訴訟中幾回ニテモ生スルモノナリ且雙方互ニ生スルモノナリ故ニ一懈怠ハ直ニ全訴ノ勝敗ヲ判決スヘキモノニ非ス

第二問ハ立證決議ノ送達ニ受取ノ證ヲ爲サ、ルモ如何ノ問題はレナリ

此ニ裁判所ノ實際ニ付大ニ注意スヘキハ裁判官ノ期日ヲ定メタルモ雙方ノ代理人相謀テ延期ヲ乞フ裁判官ハ止ヲ得ス之ヲ許可セン而シテ遲滯ノ患少トモ然レ相方ノ合意拒ムヘカラス之ヲ防ク道他ナシ司法大臣ヨリ相當ノ理由ナク延期ヲ乞フハ不可許ト訓示スルニ過キス

(疑問) 合意拒ムヘカラスルハ法理ノ當然ナリ如シ裁判官ハ司法大臣ノ訓示ヲ承行スレハ

其犯法ナリ司法大臣ハ執法監督ノ身ヲ以テ自ラ犯法ノ教唆者タルニ非ス乎余ハ思フ大臣ハ各代理人組合長ニ訓示シ之ヲ榮譽裁判ニ關係セシムヘシト如何

凡期日ハ双方必ス遵行スヘシ但變更ヲ請求スルハ此限ニ在ラス裁判所ハ其請求ニ付マテ判決ヲ爲スヘシ而シテ裁判官ノ命令ニ背クモノハ皆懈怠ト爲スヘシ

第二判定。判定ハ裁判所ノ必爲サ、ルヘカラスル處分ニシテ彼裁判官ノ任意ノ命令ニシテ之ニ違犯スレハ懈怠トナルモノト同シカラス

判定ノ主タルモノハ訴訟ノ能^{レギマチチ}力裁判ノ管轄ニ付決議スル如ク訴訟ヲ前進セシムルニハ必ス之ヲ爲スヘク之ヲ爲サ、レハ訴訟進行ヒサルモノニ係ル故ニ判定ハ前手續中ニモ立證手續中ニモ生スルコト少カラス

管轄判定ニ二アリ一ハ取上ヘカラスルモノ此ハ却下ノ上訴ヲ許サス一ハ被告ヨリ非管轄ノ爭アリテ之ヲ判定スルモノ

レギマチチチント云フニ種々アリ雙方本人ノレギマチチチン代理人ノレギマチチチン事件本体ノレギマチチチン此三個ハ善ク明晰ニスルヲ要ス本人ノレギマチチチンニ二アリ訴者ト被訴者ノレギマチチチンナリ。代理人ニ付テハ代理ノ如何原被告ハ互ニ相手方ノ代理人

ニ付異議ヲ爲スヲ得例ヘハ彼ハ營業停止中ナリ又ハ本人ノ委任ナキモノナリト云フノ類。事件ノレギチマキチンハ民事訴訟ニ屬セス例ヘハ寺院ヲ私有ニ爲サントシ又ハ無主ノ間地ヲ得ントスル如キ行政部中ノモノヲ司法裁判ニ呈出スル如キ是事件本休ノ不正當ナリ此場合ハ管轄違ト云ハス管轄違ト云ハ猶他ノ裁判所ニ往クヲ得レ是ハ更ニ他ニ往クヲ能ハサラシムルナリ

問 本人ノレギチマキチンニ屬スヘキモノ即チ連名義務者ノ連帶ト分擔トハ民事商事ニ依テ區別スルハ各國共ニ同シ余以爲ラク總テ一証書ニ連名シテ分擔ノ明文ナキモノハ之ヲ連帶ト看ルコト適當即チ人情ノ自然ナリト考フ如何

スタイン氏曰 佛法ハ不尽ナリ余ハ君ト同意ナリ三人ニテ千マルクヲ借レハ貸主ハ其三人中ノ關係ニ及ハス只三人ヲ以テ一ノ借主トセンノミ

管轄及能力ノ判定ハ皆前手續中ニ在リ立証手續中ニ生スル判定ニアリ是立證ヲ命スル決議ナリ此ニ一問起ル夫裁判官ハ雙方ニ某ノ證據ヲ呈出セヨト命スル權アリヤ否ヤ證人ノ證據ノ證據ハ總テ雙方ノ隨意ニ任スコト原則ナリ鑒定人臨檢及ヒ宣誓ノ證據ハ裁判官ノ意見ニ任スコト亦原則ナリ而シテ其判定ニニアリトハ一ハ立證ニ付一般ノ判定ナリ一ハ一部ノ判定ナリ證人ノ當否證書ノ眞否鑒定人ノ當否宣誓ニ付判定ス

立證方法ノ許否ニ付決議即チ判定ニ對シテハ故障ヲ許ス故障ハ書面ヲ以テ其裁判所ニ申立テシム

異議ヲ爲スニハ期限ナク又是ヨリ確定ノ効チ生セス他ノ上訴ニハ必ス期限ト確定トアリスタイン氏曰 問題中ニ裁判官自ラ爲シタル判決ヲ變更スルコト云々トアリ此説明ニテ解釋セラレシ哉

答 否事甚タ難シ後ニ問フヘシ

此ニ次クモノハ判決ナリ連合裁判ニハ法律ニ一定ノ方アリテ先ツ一專任官^{レフレンテン}一定ノ判決見込ヲ定メ連合裁判官ニ對シテ之ヲ演說シ裁判長ハ各裁判官ヲシテ之ヲ議セシメ而シテ決定ス獨任裁判官ニ付テハ一モ定式ヲ要セス

判決ニ對シテハ上訴ノ權ヲ許ス故ニ判決ヲ下セハ必法定ノ期限アリテ之ヲ過レハ裁判ハ確定トナリ上訴權ヲ消滅ス上訴ニ付テハ種々難問アレト今之ヲ説カス

判定ニ對スル上訴許否ノ問題アリ余ハ之ヲ許サス如シ之ヲ許スルハ上等ノ裁判所ハ一件ノ爲ニ二回ノ上訴ヲ受ケサルヲ得ス何トナレハ本案判決ニ付テハ固ヨリ上訴ヲ許スヘケレハナリ

上訴ニ於テ始審ニ主張シタル事實及ヒ使用シタル證據ノ外之ヲ主張シ又ハ立證スルコトヲナス

へキヤ否ノ問題アリ

姑ク以前ニ説キ殘シタル異議ト上訴ノコトヲ説カン
已ニ説キシ如ク命令ハ訴訟ノ取扱上ニ疑義アリ又ハ指揮ヲ要スヘキニ臨ミ裁判官ノ下ス所
ノ命令ナリ書類ノ送達差出又ハ各期日ヲ定ル如キ是ナリ
判定ハ本案判決ノ條件即チ前置トナルヘキ點ニ付キ裁判官ノ爲ス所ナリ判定ニ三個アリ一
ハ管轄ニハ訴訟能力三ハ懈怠ナリ

判定ニハ對審ニ依ルト否トノ二様アリ而シテ判定スヘキ點ニ付テハ異議ヲ(異議ト記スルモ
ノ原語ニテ、ル
ル又ハアインズブルフト云フ今日本
譯語ヲ以テ獨乙法ニ擬スレハ稍當ラズ)ヲ訴ス
余ノ見ヲ以テスルニ判決ニ對スルモノハ上訴ヲ許シ判定ニ對シテハ異議ニ止ル而シテ今説
ク所ノ三個ノ判定ニ對スル異議ハ必ス判決ノ前ニ爲サ、レハ之ヲ許サス猶之ヲ詳言スレハ
訴訟中ニハ數段落アリ異議ハ必ス段落中即次後ノ段落ニ移ラサル前ニ爲スヘシ懈怠ノ如キ
モ一訴中屢生スレハ必其毎段中ニ非レハ異議ヲ許スヘカラス管轄ニ付テノ異議ハ必
初頭ニ在ルヘク立證立法ニ對スル異議ハ異議前ニ申立ヘク已ニ立證ニ取懸レハ異議ヲ許サ
ス是故ニ終極ノ時ニ及テハ右三個ニ對スル異議ニ最早一モ取上ヘカラス
原告訴狀ヲ差出セシキ裁判官ハ其正當ノ能力ナキヲ視テ之ヲ却下ノ判定ヲナス原告異議ヲ

申立裁判所ハ之ヲ尋問ノ上相當ト判定シ之ヲ被告ニ送達セシム被告ハ其正當ノ能力ナキ
ノ異議ヲ申立裁判所ハ此ニ至リ雙方カ意見ヲ聽キシ上判定ヲ爲スヘシ

問 同一事ニ付同一裁判官再三判定ヲ爲ストハ何ソヤ

ス タイン氏曰 事同一ナルモ異議ノ理由ハ各異ナリ

問 最初却下スルニ原告能力ノ有無モ糾サスシテ之ヲ爲ス乎

ス タイン氏曰 訴狀上ニ付不完全ナルコトヲ見出スルハ之ヲ糾スニ及ハス又代言人ノ委任狀
ナキトノ類ハ直ニ之ヲ却下ス而シテ其廉ヲ補正シテ再呈スレハ完全ト判定スルコト少カラ
ス

問 如此ハ是故障ニモ異議ニモ非ス唯補充改正ノミ

ス タイン氏曰 是即チアインズブルフナリ

問 原告已ニ補正シ完全ノ訴狀トナリ之ヲ被告ニ送達シ被告更ニ原告ノ無能力ヲ申立ルル
裁判所ハ雙方ヲ訊問シタル上判定ヲ下シタルニ再ヒ同一裁判所ニ異議ヲ訴ストハ怪ムヘ
キニ非スヤ

ス タイン氏曰 此判定ニ對シテハ最早異議スヘキ筈ナシ如シ之ヲ許セハ無際限余ノ判定ニ
アペラチチノスチ許サスト云ヒシハ是ナリ

判決ノ上ハアペラチヤンスヲ許スノ外レヒデチヤンスヲ許スコトナシ。レヒデチヤンストハ一事ヲ再審スルモノナレハナリ併一個ノ場合ハ之ヲ許スヘシ始審ニ於テ立證手續終リタル後新ナル立證方法即チ適實ナル證人又ハ證書類ヲ得タルモ手續ノ再施ヲ許スコトヲ得雙方者ハ立證ニ付前以テ充分準備ヲ爲シ遺漏ナカラシムル等ナリ故ニ原則ハ此再施ヲ許サス故ニ唯自己ノ過失怠忽ニ非ルコトヲ證明シタルモミ之ヲ許スヘシ之ヲ許スニハ判定ヲ用ユヘシ終極手續ニ及テハ是迄爲シ來タル事ヲ聚合シテ辨論スルノミナレハ管轄能力立證等ノ異議アルヘキコトナシ

懈怠判定ニ付キ定期ヲ過クルモノモ元來異議ヲ許サス唯天災又ハ非常ノ變故ニ罹ルモ之ヲ許ス然レモ其時ハ異議ニ非ス請願ナリ。古ハ之ヲエーハフトト云ヒタリ。エーハフトトハ婚姻ノ拘束ト云フ意ナリ或人出廷スヘキ日其妻分娩シ爲ニ公廷ニ出サリシ而シテ請願ヲ以テ失權回復ヲ許サレタリ爾后概シ之ヲエーハフトト稱ス家屋ノ火災水難ニ罹リ或ハ父母子女ノ死亡ノ如キ皆是ナリ而シテ裁判所ハ固ヨリ之ヲ許否スル權アリ如シ裁判所ノ許ヲ得サルモ猶ホ司法大臣ニ請願スルコトヲ得

判決ニハ言渡ト確定ノ二要件アリ言渡ハ書面ヲ用ユルモ口頭ヲ以テスルモ同一ナリ要スルニ關係人ニ承知セシムル爲ナリ故ニ口頭ニ非サルモハ必ス書面ノ逐達アルヲ要ス言渡ヲ受

ケタルモ即書面ナレハ其領収セシキヨリ期限ヲ生ス其言渡ニ對スルアペラチヤンスハ必ス法律上ノ期限ニ爲スヘシ其期限ヲ過レハ判決ハ確定トナリテ動スヘカラス

判決ヲ爲スニハ三個ノ別アリ一請求權ノ目的ニ利子賠償ニ裁判入費請求トハ最初ヨリ一定シテ申立ル所ナリ利子トハ起訴ノ日ヨリ落着マテノ間ニ生スル所ノモノナリ賠償トハ最初物品ノ要求ナリシニ訴訟中被告ノ手中ニテ物品ノ消滅スルモ其代價ヲ求ルコトニ變シタルナリ裁判入費ニ三個アリ一代理人報酬。二立證入費即證人ノ旅費日當鑑定人ノ日當及ヒ報酬ノ實費三判決費ナリ代官入費用ニ定不定ノモノアリ不定ノモノハ代官人之ヲ書記シ本人ノ異議アルモハ裁判所ハ之ヲ減スルコトヲ得

此裁判費用ハ裁判ヲ以テ一方ニ負擔セシメ又ハ雙方ニ分擔セシム此入費ノ裁判ニ對シハ獨立ノアペラチヤンスヲ許スベカラス此原則ハ必要ナリ

アペラチヤンスノ手續ハ必裁判言渡ト確定期限トノ中間ニ始ムヘシアペラチヤンスニ於ケル手續ハ唯前裁判所ニテ爲シタル手續ノ再施ニ止マル故ニアペラチヤンスノ原則ハ前裁判所ニ用ヒタル書類ヲ用ルモノトシ前裁判所ハ其一件書類ヲ上級ノ裁判所ヘ送致ス

此ニ一問アリ第二審ニ於テ前裁判ニ使用セサリシ新ナル立證方ヲ許スヘキヤ否余ハ答テ否トス何トナレハ第二審ノ目的ハ第一審ニ證明シタル事實ニ付其判決ノ正當ナルヤ否ヲ審理

スルニ止マレハナリ

又前判決ノ后必要ナル新證人。證書等ヲ發見シタルキハ如何是亦原則ニ依レハ一般ニ許スヘカラス唯不得止適當ナル證明ヲ爲スルハ之ヲ許スモ可ナリ併第三審ニ至テハ決之ヲ許スヘカラス

是等ハ法理上ノ原則ニハ非ス實際ニ起ル公益上ノ原則ナリ

アペラチチンズスグリヒツハ第一審ノ事實ニ基キ法律ノ當否即結果ヲ論定スルモノトス故ニ其原告ハ法律ノ結果ヲ以テ理由ト爲スヘキノミ

此ニ原則アリ第一審第二審共同一判決ナルキハ第三審即チ第二ノアペラチチンズ許サズ互ニ異ナルキノミ第二アペラチチンズ許ス

第一審第二審同一ナルキモ一方者非常ニ不利益ヲ被ルキハ非常ノレヒチチンズ請願スルヲ得然レ是訴狀ニ非ス請願ナリ故ニ第三上級裁判所ハ受否ノ權アリ之ニ反シ第一審第二審ノ異ナルモノハアペラチチンズ受理ノ義務アリアペラチチンズ申立ハ必相手方ニ通知セサルヲ得スレヒチチンズノ請願ハ否ラス

民事ニクールトカッサシヨノ名稱ハ不適當ナリ何級又ハ最上等裁判院トスルヲ可トス最上等裁判院ハ固ヨリ全國一院トス其長官ハ各大臣ト同等ニテ其評定官長ハ上等裁

判院長ト同等ナルヘシ

アペラチチンズノ稱ハ舊シカッサシヨノハ近來刑事ニ付起リタルモノナリ稍小節ニ涉レヒ聊カ説ヘシ地方裁判所以上ノ連合裁判官ヲ用ル所ハ事務ノ多少ニ從ヒ局ヲ分チ一局ハ少クハ三人以上ノ裁判官ヲ定メ土地ニヨリ又ハ事件ニ依リ各局ノ擔當ヲ豫定スヘシ而シテ局長ハ事件毎ニ專理員ヲ定ムヘシ重大ノ事件ニハ專理員二名ヲ設クルモ可ナリ專理員ハ一件書類ヲ擔任ス

專理員ハ審問終レハ事件ノ大要ヲ撮リ演說ヲ爲シ自ラ作りタル判決文ト其理由文トヲ讀ム局長ハ連班裁判官ニ辨論セシメ次ニ意見ヲ述ヘシメ多數ニ決ス同數ナルキハ局長之ヲ決ス是等ハ余ノ説ヲ待タズ君ハ余ヨリ實際ニ練達セン

最上等裁判院ノ判決ハ成文ノ法律ナキ事件ニ於テハ殆ト後來ノ成例トナリ法律ニ同キ効力ヲ有スヘキモノナリ故ニ此場合ハ最鄭重ニスヘシ即各局總會ニ依リ之ヲ決ス各局員ハ此ノ類ニ當リテハ院長ニ總會議ヲ開ク申立ヲ爲シ院長ハ之ヲ各員ニ通達スヘシ

最上等裁判院ノ判決ハ之ヲ公布スヘシ是一ノ法源ニシテ全國ノ裁判ニ影響ヲ及スモノナレハナリ

問、オーベル裁判院トオーベルステー裁判院トノ區別ハイカン

スタイン氏曰　チーベルスターハ全國一ヶ所ナリオーベルハ無制限ニシテ數十個ヲ設クル
モ可ナリオーベルハ第一審ニ對スル上訴ヲ受ケオーベルスターハ第一審ト二審ト各別ナ
ルキノミ受理ス又オーベルスターノ判決ハ下等ノ裁判所ニ對シテハ殆ント法律ト同一ノ
効力アリ是最モ特權ナル所ナリ

問　アペラチランハ(アペラチチント)ハ上訴ナリ上等モ最上等モ上訴ノ廉ハ獨佛ノ制ト意
ヲ異ニスト知ルヘシ(始審ニ於テ證明シタル事實ニ依リ法律ノ適用ノミヲ調査スト果ソ
然ル乎

スタイン氏曰　事實ハ動かカス可カラス然レモ其事實ノ認定ハ必シモ各人同一ナルヲ能ハス
故ニ上訴^{アペラチチン}ニハ事實認定ノ不當ヲ主張スルヲ得

問　上訴ハ書面審理乎將タ口頭乎
スタイン氏曰　上訴狀差出等ハ書面手續ニシテ其以后ハ口頭ナリ

問　前裁判ニ使用シタル證人。證書等ハ更ニ審理スル乎
スタイン氏曰　否總テ之ヲ用ヒス唯裁判后ニ見出タル證人。證書ヲ用ヒント申立ルキハ其
許否ヲ判定ス

聊カ沿革ヲ説カンニ上古ハアペラチチンノ法ナシ是未タ獨任裁判官ノ制ナク國民裁判ヲ爲

シタレハナリ後獨任裁判官ノ設ケアリヨリ隨テアペラチチンノ法生セリ刑事モ亦同一ナ
リ故ニ獨任裁判官ノ制廢セラレハアペラチチンノ制モ廢スヘシ今刑事ニ陪審ヲ用ヰル國
ニハ此ノアペラチチンヲ用ルヲナシ是陪審ハ國民ノ代表ナレハナリ是故ニ刑事ニカッサシ
ヨソノ制起ル次ニ特赦願ノ法起ル而シテ民事ニハ破毀ト特赦トノ二個ノ請願ハ共ニ不要ナリ
破毀ノ請願ハ判決ニ對スルモノニ非ス手續ニ對スルノミ其前裁判ノ手續中治罪法ニ違犯セ
シキハ之ヲ主張シ且證明シテ破毀ノ請願ヲ爲スモノトス而シテ其手續ヲ破毀スルキハ判決モ
隨テ變更ヲ受ク

アペラチチンハ事實ノ認定ノ不當ヲ理由トスルヲ得ルモカッサシヨソハ事實ノ認定ニ關セ
ス唯手續ノ不法ノミヲ理由トス
破毀院ハ最上等上訴裁判院ノ一部ナリ故ニオーベルスターハカッサシヨソヲ兼ヌルヲ
得レモ其本源ノ目的ハ大ニ異ナレリ

(疑問) 民事モ已ニ連合裁判官(獨任ニ非ラス)ニ於テ第二ノ事實^{シルス}認定ヲ爲セシ上ハ(陪審ノ
刑事ニ於テ事實ヲ認定シタルト同視シ)最早事實ハ正當ノ認定ヲ得タルモノト看做シ
最上等ヲ破毀院ト改メ唯前裁判ノ手續ノ不當ト法律適用ノ不正トノミニテ調査スルヲ獨
佛等ノ現行法ノ如クスルハ不可ナル所アル乎

スタイン氏曰 日本ニハ陪審ナケレハ破毀院ハ不要ナリ最上等ニテ足レリ
是迄ニテ余ノ説カント望ミタル訴訟法ノ大要ハ盡タリ猶聽カントスル所アリヤ
答 有リ訴訟法ノ結末タル執行方ノ原則ヲ聽カン

執行手續

執行法ハ甚々端緒多ク委曲ノ説明ハ容易ナラス凡訴訟ノ種類異ナレハ執行法モ亦各別アリ
例ヘハ分散ヤ爲替手形ヤ證書手續ヤ皆之ニ應スル執行法アリ今普通訴訟ニ適用スヘキ執行
ノ大畧ヲ擧ケン

夫執行ニ第一要件タルヘキモノハ裁判ノ確定ナリ判決ニハ三個ノ目的即チ請求。利子。裁判
入費ノトアルハ已ニ説キタリ而シテ判決ニハ必敗者ニ幾日間ニ履行スヘキ旨ヲ附記ス確定ノ
上ハクウウセルナル執行命令書ヲ與フ但裁判所ハ判決ヲ與ヘシ后ハ全ク關係ヲ離ル、モノ
トス

敗者判決ヲ期限内ニ履行セサルキハ勝者ハ判決ニ基キ執行願チ裁判書ニ添ヘ裁判所ヘ願出
ツヘク裁判所ハ之ニ對シ執行命令書ヲ發シ之ヲ執行吏ニ付ス

執行吏ノ爲スヘキ事ハ訴訟ノ目的ニ從テ同カラス如シ物品引渡ノ訴訟ナルキハ直ニ其現物
ヲ執リ之ヲ勝者ニ交付スルノミ如シ不行爲ノ義務ニ背キシ訴訟ナルキハ敗者ニ再之ヲ爲

スヘカラス之ニ背ケハ罰スヘキ旨ヲ以テ之ヲ強制ス如シ一定ノ金額ヲ辨償スヘキモノナル
キハ質取^{ベンコウ}ヲ以テ之ヲ遂ク

質取ハ金額ノ多少ニ從ヒ方法同カラス少額ナレハ執行吏少物品ヲ取上ケ敗者ニ三日又ハ五
日間ニ辨償スルヤ否ヤ若シ辨償セサレハ物品ヲ公賣セント通達スヘシ如シ敗者猶辨償セサ
レハ直ニ公賣ヲ爲スヘシ

多額ナルキハ財産總体ノ質取ヲ爲ス此時ハ執行吏總財産ノ目錄ヲ作リシ後ハ敗者全ク是處
分權ヲ失フ而シテ執行吏ハ猶物品ニ就キ封印ヲ爲シ質取ノ證トス裁判所ハ物品ト場合ニ依リ
之ヲ裁判所ニ引取り保管スルヲ得

公賣ハ動産ト不動産ト同カラス不動産ハ先ツ其評價ヲ爲シ而シテ第三回ノ公賣ヲ爲ス第一回
第二回ノ公賣ニハ評價以下ニ賣却スルヲ許サス第三回ニ及テハ單ニ高價ニ落札シ評價ニ泥
マサルヲ得而シテ其代價中ヨリハ先第一ニ租稅第二ニ抵當等地券帳簿ニ基クモノ第三ニ尋
常債主ニ支償スヘキモノトス

又ベシコラベナーメト云フアリ是ハ敗者ヨリ他人ニ對シ請求權ヲ有スルキ裁判所ハ執行吏
ヲシテ他人ノ支拂ヲ差押ヘルナリ差押ラレシ人ハ裁判所ヘ提出スルノ外何人ニモ支拂ヲ爲
スヘカラス之ヲ爲スル無効ナリ

以上執行方ノ大要ナリ細目ハ容易ニ説盡クスヘカラス

スタイン氏曰 余ノ講説此ニ終レリ君ノ起シタル問題モ解釋セラレシモノ多シト信ス如何
答 解ト不解トアリ其上講説ニ付キ質疑スヘキト更ニ生セリ是ヨリ余ノ質問ニ對ヘラレ
ンヲ欲ス

スタイン氏曰 諾

問 執行吏ノ差押ヲ爲スル敗者ヨリ他ニ債主多シ今一人ニ交付シ難シ分散處分ヲ請フト申
立ルキハ如何

スタイン氏曰 何人ヲ分タス自己財産ノ多少負債ノ多少ハ常ニ自ラ知ルヘキモノナリ故ニ
負債ノ財産ヨリ多キニ至ルキハ必分散申出ノ義務アリ然ニ裁判確定シ執行ノ時ニ至テ始
テ分散ヲ申出ルモノハ之ヲ罰スヘシ(敗者固ヨリ義務ヲ認メサルモ)ア(或ハ非ナラン)差押ヲ爲サ
シメントスル權利者ハ分散ニ對シ確定ノ權利ヲ有スルノミ

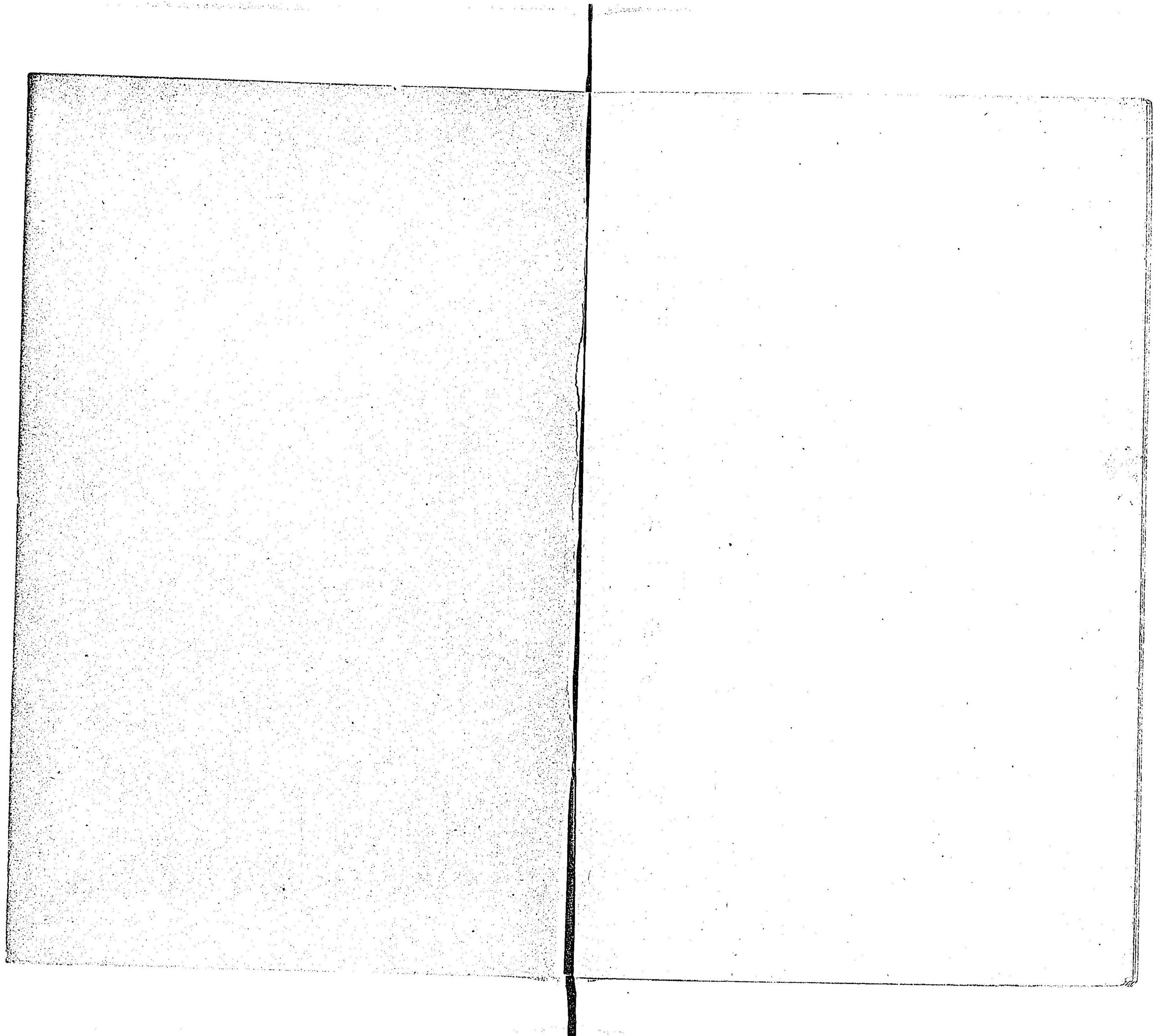
版權登錄

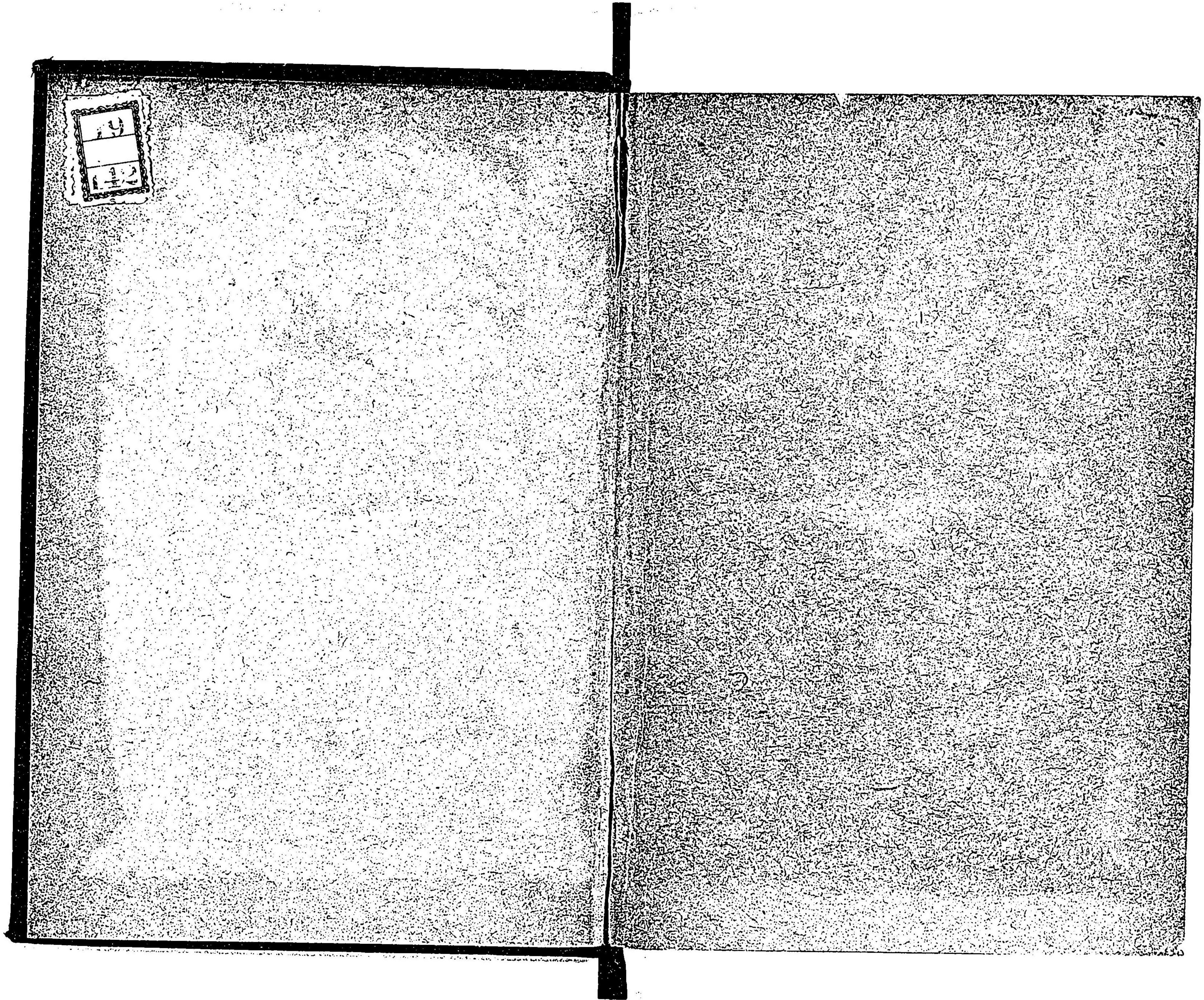
明治廿一年五月十八日 出版

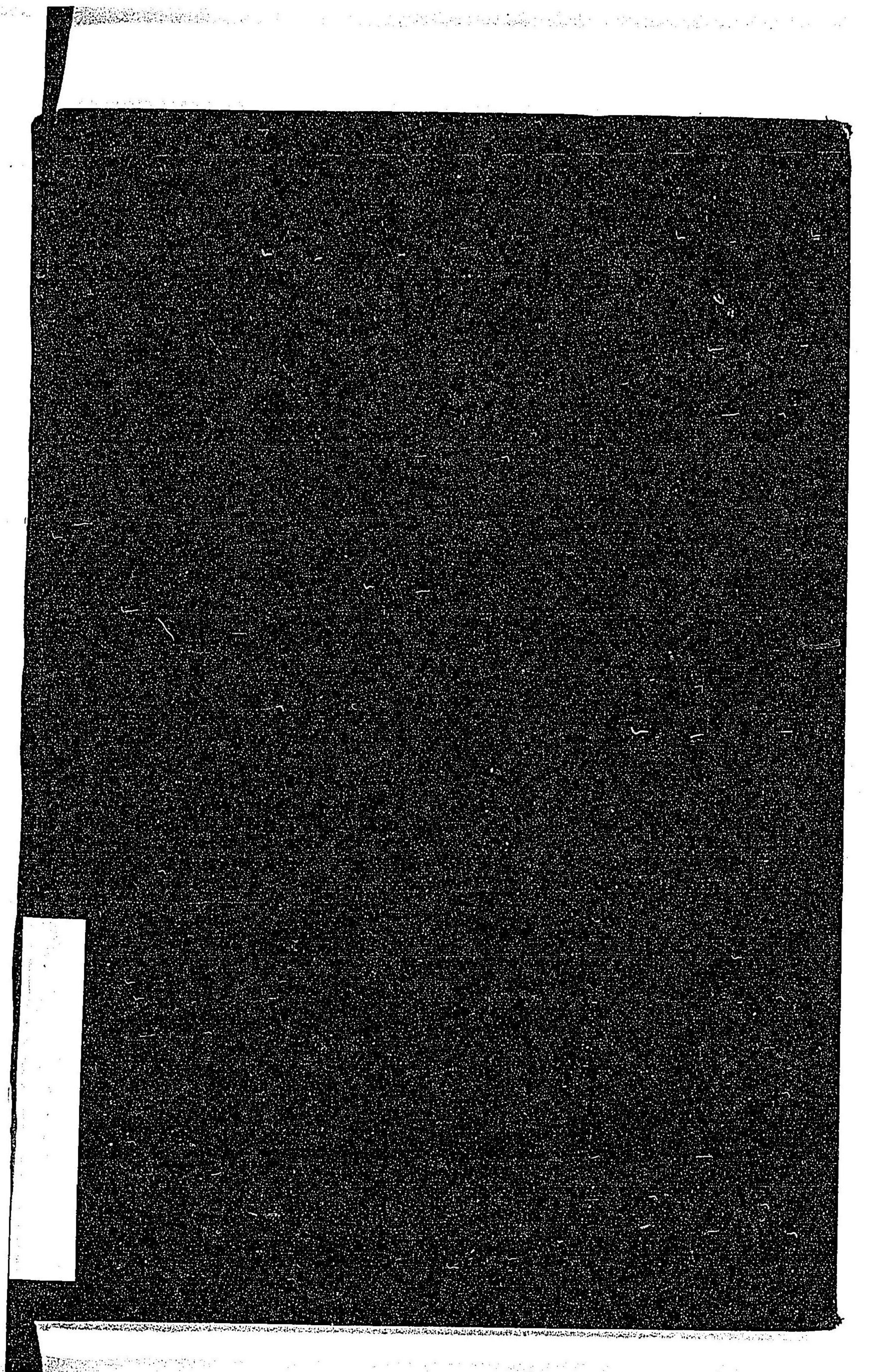
版權所有

司 法 省

東京橋區八官町忠愛社印行







19

142

036820-000-2

19-142

訴訟手続大意講義

スタイン/著

M21

BBS-0286

